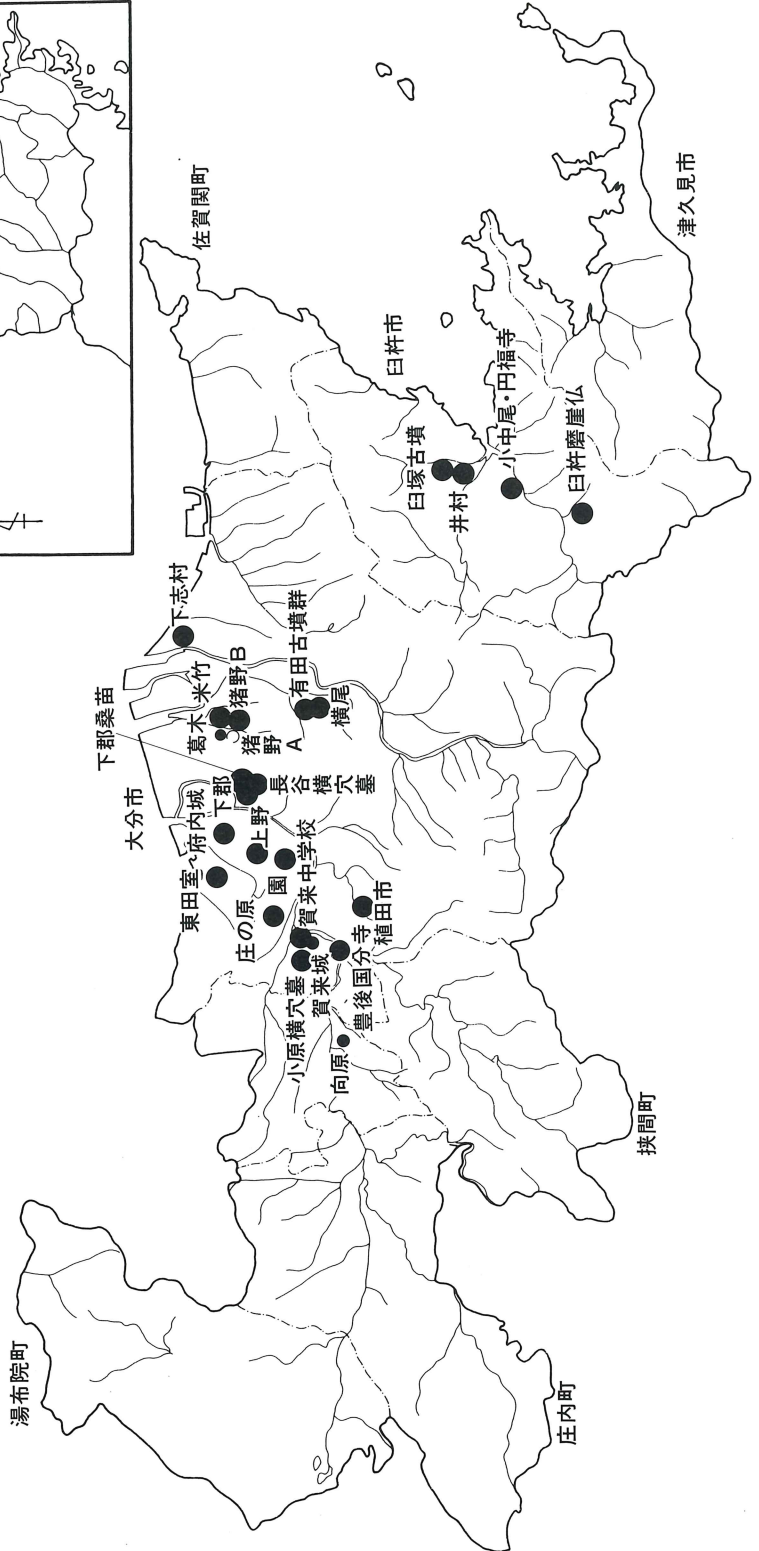
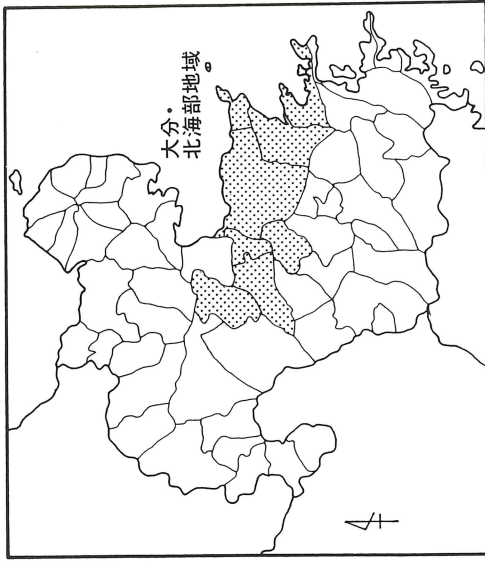


大分・北海部地域 (大分教育事務所管内)



118. 向原遺跡 むかいばる

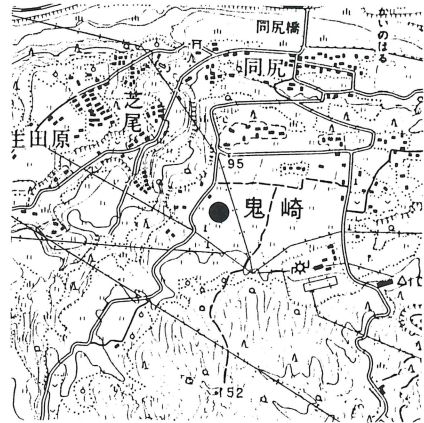
所在地 大分県挾間町大字鬼崎字向原
調査原因 県営圃場整備
調査期間 910626～910724
調査主体 大分県教育委員会

調査面積 150m²
担当者 宮内 克己
処置 保存

遺跡は、大分川右岸の標高約 92～105 m の河岸段丘上に位置する。工事対象区域(約8.5ha)の中で、主に削平を受ける水田を中心にグリッドとトレンチを任意に設定し、試掘調査を実施した。

その結果、北西部と南西部の2カ所において中世期の建物跡と考えられる柱穴を検出した。工事担当部局とその取扱について協議の結果、工法変更により遺跡の保存を図ることとなった。

文献：宮内克己「向原遺跡」『大分県内遺跡詳細分布調査概報』11 1992 P14。



向原遺跡位置図

119. 下志村遺跡 しもしむら

所在地 大分市大字大在字下志村
調査原因 土地区画整理事業
調査期間 911125～911213
調査主体 大分県教育委員会

調査面積 200m²
担当者 高橋 徹
処置 調査後破壊

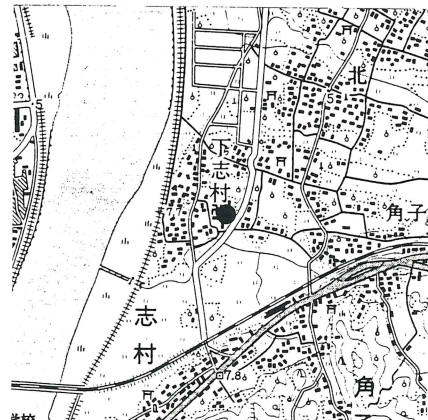
位置 大野川左岸に位置する砂地の微高地。

遺構 弥生前期の袋状ピット(1基)、中世土坑墓(1基)、時期不明の方形土坑(1基)。

遺物 弥生式土器多数。

中世土師器(小皿他)、陶磁片少量、
中世人骨片。

まとめ 弥生前期土器は古い段階の下城式甕、壺で当該期の土器編年にとって貴重な資料である。



下志村遺跡位置図

120. 豊後国分寺跡

所在地	大分市大字国分	調査面積	400m ²
調査原因	道路改修	担当者	塔鼻光司
調査期間	9112	処置	現状保存
調査主体	大分市教育委員会		

本調査は、史跡豊後国分寺跡指定地北側に隣接する市道および水路改修に伴う確認調査として実施した。

今年度は、指定地北側に隣接する市道沿いにトレンチを設定し調査をおこなったが、現水路敷設時にかなり削平を受けており、遺構の遺存状況は良好とはいえなかった。中でも伽藍中軸線上にあたる部分について慎重に調査をおこなったが、遺構の存在は確認されなかった。しかし国分寺の伽藍遺構としては唯一西側溝遺構の延長が確認されたため、遺構保存について大分市土木建築部道路課と協議をおこない、溝遺構部分に影響を与えない工法で着工することとして、遺構保存の措置を講じた。

文献：塔鼻光司「豊後国分寺跡」『大分市埋蔵文化財年報』3.1992. P25。



豊後国分寺跡位置図

121. 葛木遺跡

所在地	大分市大字葛木字七本松	調査面積	87m ²
調査原因	宅地造成	担当者	塔鼻光司・坪根伸也
調査期間	9203	処置	本調査予定
調査主体	大分市教育委員会		

調査は宅地造成に伴う確認調査として実施した。調査は2ヶ所のトレンチを設定し、遺跡内容の確認をおこなった。

調査の結果、各トレンチ内において住居跡・柱穴を検出している。第1トレンチにおいて確認された方形プランを呈する竪穴住居跡について一部掘り下げをおこなった。検出面から約0.15mにおいて住居庄面を確認することができる。さらに、床面において土壌状の掘り込みを確認し、掘り下げをおこなったところ内部底面において器台形土器が出土した。この器台は上縁部を欠損するが、遺存率がすこぶる高く、当資料の存在からこの住居跡が弥生時代終末期の所産であると判断できよう。

文献：坪根伸也「葛木遺跡」『大分市埋蔵文化財調査年報』3.1992. P26。



葛木遺跡位置図

122. 小原^{こはら}横穴墓

所在地	大分市大字中尾字小原	調査面積	横穴墓 1 基
調査原因	ゴルフ練習場	担当者	讃岐 和夫
調査期間	910510	処置	現状保存
調査主体	大分市教育委員会		

位置 市街地より南西約7km、大分川と賀来川に囲まれた平野の右岸、東に延びる中尾台地の東側斜面に位置している。標高37m南西に開口しているが、玄室部の半分が後世の削平を受けていた。また、賀来川を挟んで対岸には餅田古墳群、千代丸古墳や岩御堂横穴墓群等多くの古墳が所在している。

遺構 横穴墓の規模は残りの部分で横幅152cm、奥行98cm、高さ68cmを測る。形状はドーム形である。ノミ痕は床面に良好に残っていた。ノミ幅は広い。

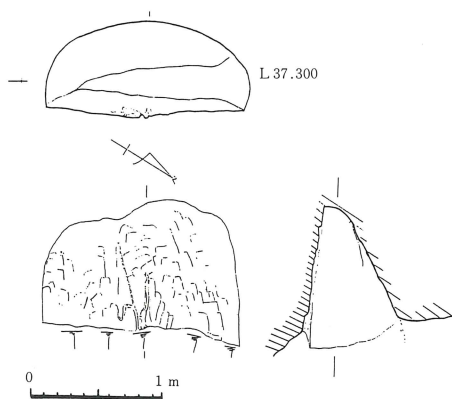
遺物 ふくらが張り、ややその下がすばむ五角形で抉りをもつ有茎の鉄鏃が1本、須恵器、土師器小破片が数点出土している。

まとめ この地区では、1基のみであるが地形からみても数基存在していたと思われる。また、この横穴墓が造成されたのは7世紀頃とみられる。

文献：讃岐和夫「小原横穴墓」『大分市埋蔵文化財調査年報』3 1992 P13。



小原横穴墓位置図



小原横穴墓実測図

123. ^{かくちゅうがっこう}賀来中学校遺跡

所在地	大分市大字賀来字門田	調査面積	1,000㎡
調査原因	プール建設	担当者	坪根 伸也
調査期間	910416～910530	処置	調査後破壊
調査主体	大分市教育委員会		

位置 遺跡地は大分市の西部、大分川と賀来川の合流地点西側に展開する低丘陵上に立地する。標高約17mを測り、遺跡地西側には低湿地帯を擁する。昭和56年中学校校舎建設の際に1次調査を実施し、今回の調査地点は1次調査地点の南方約50mに相当する。

遺構 弥生時代～古墳時代：

溝状遺構2条・堅穴住居址8軒・土壇
中世：井戸跡2基・溝状遺構2条
遺構上面は削平を受けており、遺構の遺存状況は悪い。

遺物 弥生時代の所産となる溝状遺構の中から弥生時代後期後半に比定しうる土器多数が出土している。また、中世溝状遺構中からは輸入陶磁器、土師器、中世陶器、五輪塔片等の出土が認められる。

まとめ 弥生時代の遺構・遺物に関しては、昭和56年の調査において確認した弥生時代の集落の展開状況に関する新知見を得ることができ、さらには溝状遺構内より出土した多量の土器は該期の土器編年に際し有効な資料となるであろう。中世の所産となる溝状遺構（2号溝）は出土遺物の内容から14世紀後半以降の築造と考えられ、形状等の諸条件から館に付随する堀的な機能を推定することも可能である。当地は鎌倉時代より近隣地域を統括した賀来氏の本貫地として知られており、これらの遺構との関連が注目されよう。



賀来中学校遺跡位置図



調査区全景

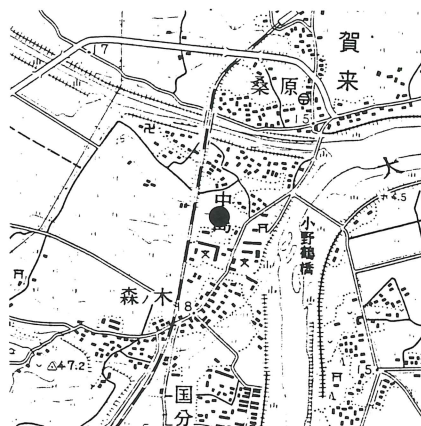
文献：坪根伸也・讃岐和夫・秦政博『賀来中学校遺跡』1992。

124. 賀来城遺跡

所在地 大分市大字国分中島地区
調査原因 道路建設
調査期間 920217～920228
調査主体 大分県教育委員会

調査面積 1,000㎡
担当者 綿貫 俊一
処置 調査後破壊

位置・環境 大分川と賀来川に挟まれた自然堤防上に立置する。調査地点の北側には「堀田」と呼ばれる浅い谷が東西に広がっており、中央部を大分川にそそぐ小支流の小中島川が東流する。発掘調査地点は通称「城」と呼ばれる水田地で、付近には「賀来氏居館址」と伝承される天満社、賀来神社がある。また遺跡の北西約400mには、賀来氏の菩提寺であった「円城寺」がある。遺跡の標高約15m80cm。



賀来城遺跡位置図

遺構 弥生時代：方形住居跡1
 鎌倉時代：溝2、柱穴多数
 時期不明：溝多数、柱穴多数
 明確な遺構としては上記した弥生時代の住居跡と、鎌倉時代の溝だけであった。柱穴も調査区が道路工事予定地内に限定されていた為に建物として再構成できなかった。

遺物 遺物包含層からは主に弥生時代中期前半の各種土器が出土している。弥生時代の住居跡からは、土器が断片的に出土しているが、詳細な時期区分は判断できない。鎌倉時代の溝からは、口径約15cmの土師質土器(完形品)と玉縁の白磁が出土した。土師質土器は、その特徴からみて13世紀前半と考えられる。

125. 庄の原遺跡 しょうのはる

所在地 大分市大字荏隅字庄の原
調査原因 道路建設
調査期間 910420～920330
調査主体 大分県教育委員会

調査面積 8,000m²
担当者 江田 豊
処置 調査後破壊

位置 大分平野の南西に広がる通称庄の原台地にあり、標高は95m前後である。この台地の中央部には毘沙門川が流れ、比高差が30～40mある深い谷が形成されている。現状は畑、果樹園が広がり、表土を除去するとクロボク・ロームが堆積していて旧石器～縄文・弥生・古墳の各時代の遺物を包含するが、特に蓬萊山古墳や丑殿古墳といった古墳が集中する地域でもある。

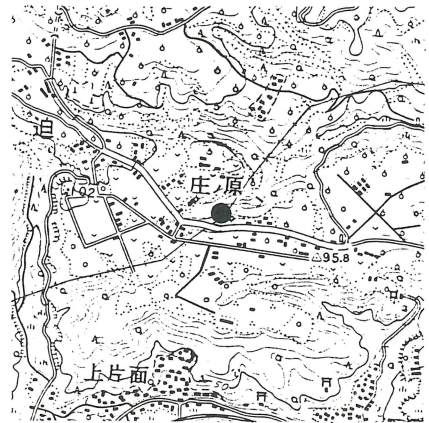
遺構 旧石器時代：集石遺構 15
 縄文時代：集石遺構 1
 弥生時代：土坑 1
 古墳時代：堅穴住居跡 5

縄文時代の遺構は早期に属する。古墳時代の住居跡は谷沿いにあり、小規模な集落と考えられる。

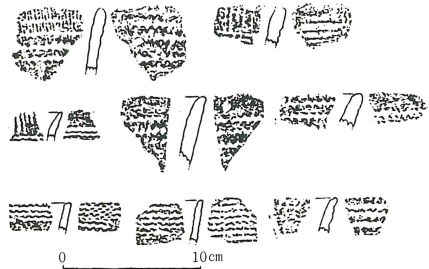
但し調査区全体に果樹園等の造成が広がっていたためかなり削平されて遺構の残りはよくなかった。

遺物 旧石器はA T直上から出土していてナイフ型石器・三稜尖頭器が中心となる。使用石材は流紋岩が最も多く、ごくわずかにサヌカイトが混じる。

素材は縦長剥片と横長剥片の比率は7：3で縦長剥片を多く利用している。遺物の出土状況から大きく4～5のブロックが想定できる。縄文早期は、押型文土器と石鏃が中心となる。押型文土器は山形文が多く、比較的密に施文するが口縁部が若干外反しつつ内面に、原体条痕を長く施文している点から、早期でも後半代に属するものと思われる。なお、旧石器時代の遺物で、磨製の石器が4点出土したことは注目されよう。



庄の原遺跡位置図



庄の原遺跡出土遺物

126. ^{わさだいち} 植田市遺跡

所在地 大分市大字市
調査原因 河川改修
調査期間 910415～920228
調査主体 大分県教育委員会

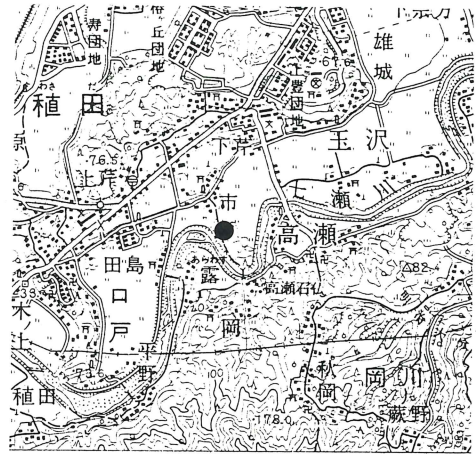
調査面積 5,500m²
担当者 吉田 寛
処置 調査後破壊

位置 大分川の支流である七瀬川西岸の沖積低地上に立地する。標高は16m前後。植田条里遺跡として周知されている広域遺跡の一角に位置する。発掘調査は5年間継続し、今年度が最終年度にあたる。

遺構 弥生時代：溝1
 古墳時代：流路1・溝3・住居跡23・土坑2・掘立柱建物跡1
 中・近世：掘立柱建物跡3以上・井戸2・耕作区画・溝・ピット多数

遺物 縄文晩期から近世にいたる様々な遺物が出土。縄文晩期の包含層は調査区北東側に残存するもので、一条刻目突帯の深鉢や丹塗り磨研の壺を含む下黒野式の良い土器類を包含する。

まとめ 今年度の調査で特に注目すべき事象は、須恵器編年TK23～47前後の集落跡を検出したことである。住居跡の中には壁面に造りつけのカマドを有するものが認められ、本地域におけるカマド出現期の集落の事例として重要である。また、縄文晩期包含層出土の土器類も「下黒野式」の内容を補強する資料である。



植田市遺跡位置図

文献：吉田寛『植田市遺跡Ⅴ－七瀬川河川改修調査概報』1992。

127. ^{わさだいち。} 植田市遺跡(N区)

所在地	大分市大字市字川田	調査面積	800㎡
調査原因	道路建設	担当者	綿貫 俊一
調査期間	920201～920220	処置	調査後破壊
調査主体	大分県教育委員会		

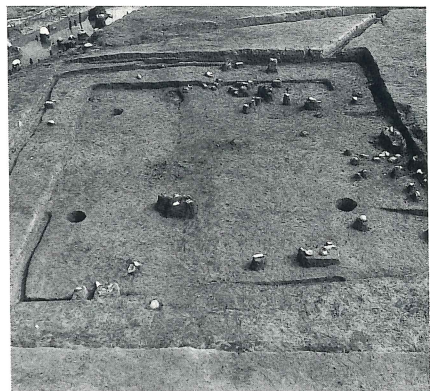
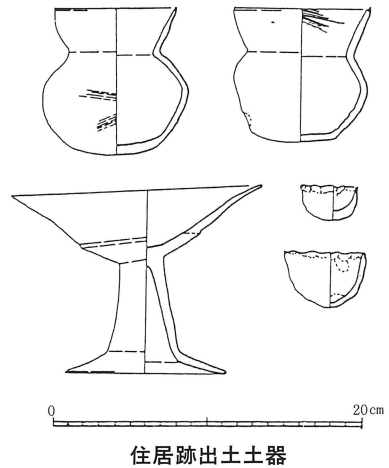
位置 植田市遺跡は大分市大字市に所在し、大分川の支流である七瀬川が形成する沖積低地上に位置する。本調査地点は国道 210号バイパス建設に先立つ事前調査によるものであるが、南方約50mの地点には七瀬川河川改修工事に伴う事前調査が行われた地区(A～M区)があり、縄文晩期から近世にかけての遺構・遺物が存在する。

遺構 古墳時代前期：土坑 1 基
古墳時代中期：堅穴住居跡 1 基
中世：溝 1
近世：溝 1

古墳時代中期の住居跡は、南北約6.5m、東西約 7.0mを測る大型のもので、ベッド状遺構を有する。中世の溝には目立った付属遺構は認められないが、近世の溝には数本の支線か取水施設と思われるものを有する。また、調査区西側に自然地形のおちこみが見られる。

遺物 住居跡からは5世紀前半から中頃の土師器が出土している。中世溝からは土師皿の破片少量と北宋銭が2枚、近世溝からは肥前産の陶磁器をはじめ、多数の遺物が出土している。

まとめ 本遺跡で検出された堅穴住居跡は、床面積が45㎡を越え、ベッド状遺構を有する。当該時期において、このような規模・施設を持つ住居跡は類例が少ない。さらに、遺跡の周辺には御陵古墳を盟主とする5世紀代の古墳がいくつか存在しており、住居跡の時期とも一致している。これらの古墳と当遺跡との関係について、今後の検討課題となる。



古墳時代中期堅穴住居跡

128. ^{ひがしたむろ}東田室遺跡周辺

所在地 大分市南春日町
 調査原因 図書館建設
 調査期間 921102～930220
 調査主体 大分県教育委員会

調査面積 10,000m²
 担当者 江田 豊
 処 置 調査後破壊

位 置 大分平野の最西部に位置し、西に庄の原～金谷迫を含む台地が迫り、北側は約1.5kmで海岸線に出る。標高は約3～5mでかつてはレンコン畑で、戦前は陸軍病院、戦後国立病院が作られていたが後に移転している。最下層には砂層が厚く堆積している。周辺には南西の丘陵に国指定の古宮古墳、東には東田室遺跡がある。

遺 構 近世：溝1条

溝は調査区東半部にあり、北東方向に走る。溝に沿って杭列が打ち込まれ一部には石組みも構築されている。溝の長さ約30m、幅1m～2m、深さ30～50cmである。

遺 物 縄文：鐘ヶ崎式土器

晩期粗製土器

近世：唐津系近世陶磁器

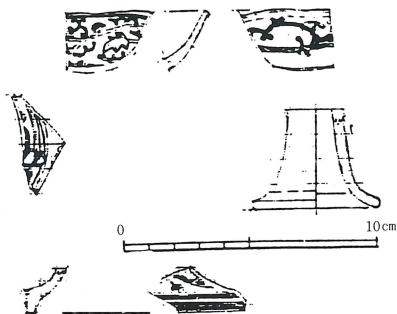
備前系すり鉢

巴文入り漆器椀

まとめ 遺物は砂層直上の黒色シルト層から出土している。さらに土器に混じって、スラッグ(金くそ)、カーボンがかなり出土した。当遺跡を含む周辺地域には近世以降鑄物師集団が活躍した地域であり、九州一円の梵鐘製作や江戸城改修工事に関わったりしているが、文献は非常に少なくその足取りを追うことは難しい。いずれにしろ、先ほどの金糞やカーボンはこの鑄物師に関わる遺物と思われる。



東田室遺跡周辺位置図



東田室遺跡周辺出土遺物

129. 府内城三の丸遺跡

所在地 大分市大手町3丁目1-1
 調査原因 県庁新庁舎建設
 調査期間 910415～910530
 調査主体 大分県教育委員会

調査面積 2,500m²
 担当者 栗田勝弘・綿貫俊一・吉田寛
 処置 調査後破壊

位置 府内城三ノ丸は江戸時代府内藩の城下町であり、現在の大分市街地とほぼ重複する。発掘調査地点は、現在の大分県庁北側（旧企業局跡地）の地点で、江戸時代には藩主松平氏の祈禱所であった福寿院や府内藩城代家老木村氏の武家屋敷が存在した場所に相当する。

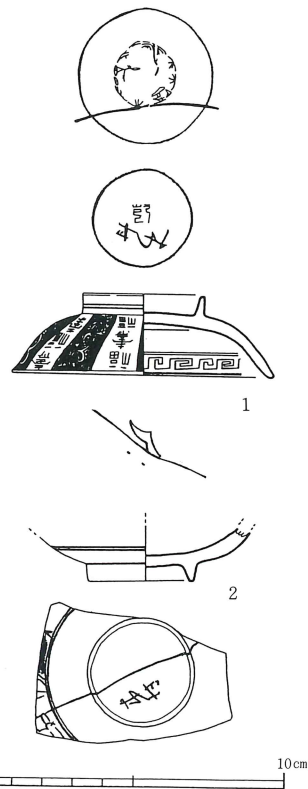
遺構 土坑約50基・井戸2基・石組み遺構など。土坑の中には地下室と思われるものが少数存在するが、他の大部分は廃棄坑（ゴミ棄て穴）である。

遺物 土坑埋土中より、大量の出土遺物が認められ、その大部分は陶磁器類である。陶磁器類は細かく見ると、Ⅰ期（17世紀前半）、Ⅱ期（17世紀後半）、Ⅲ期（17世紀末～18世紀中頃）、Ⅳ期（18世紀後半）、Ⅴ期（18世紀末～19世紀中頃）に分類される。Ⅴ期のものには焼き継ぎが認められるものがあり、その中には内底部に「木村」の焼き継ぎ文字を有するものが見られる。

まとめ 今回の調査は、府内藩の城下町遺跡に初めて発掘調査のメスを入れたものであり、当時の生活の具体相を物語るさまざまな出土遺物が認められた。今後も、他時期の遺跡と同様、市街地下に存在する江戸時代城下町遺跡に対して十分な注意を払う必要がある。



府内城三ノ丸遺跡位置図



「木村」の焼継文字のある陶磁器
 （1は染付 2は色絵）

130. ^{うえの}上野遺跡

所在地	大分市大字三芳字塩俵	調査面積	約3,000㎡
調査原因	公共施設造成	担当者	讃岐 和夫
調査期間	910901～920331	処置	一部保存
調査主体	大分市教育委員会		

位置 上野丘陵は、市街地より南へ約1.5kmで西から東に長く伸び、台地状に広がる東西1km、南北0.6kmである。今回の調査区は西側の永興より、標高72mの台地が狭まる場所に位置している。

南側には、古国府羽屋地区（古国府条里跡・国府推定地）をみおろし、東側には大友館跡が所在している。また、この丘陵は市街では唯一の緑地帯でもある。

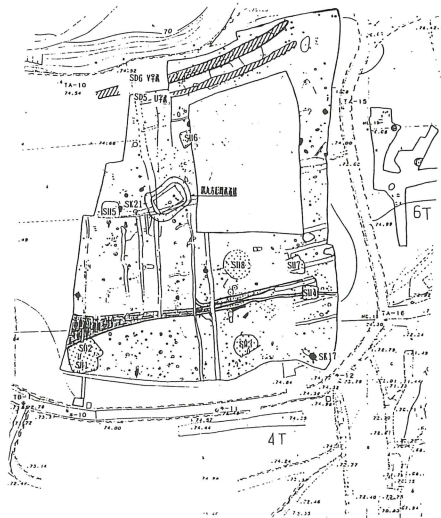
遺構 弥生時代中期：堅穴住居跡9軒
 （火災を受けたもの3軒）
 ：貯蔵穴 24基+@
 ：隅丸方形周溝遺構
 （祭祀遺構）1基
 ：V字溝 1条
 中世 ：溝状遺構 4条

ミカン園造成のためかなり削平を受けており、遺存状況は良くなかったが、特に南側に幅2m、深さ1mのV字溝と祭祀遺構と思われる隅丸方形周溝遺構があり、大きさは10m×7mで幅1m、深さ0.6mの溝を巡らせ、2間×2間（6m×3.5m）の柱跡があった。

遺物 弥生中期の住居跡からは下城式甕、壺、貯蔵穴からは、甕、壺、脚付鉢、隅丸方形周溝遺構からは鉄製ヤリガンナ1本、小型の鉢形土器5、雍、壺、丹塗り長頸壺等多く出土している。中世の溝状遺構からは土ナベ、磁器破片等が出土している。



上野遺跡位置図



上野遺跡遺構配置図

131. ^{その}園2次遺跡

所在地	大分市大字羽田字園	調査面積	1,300㎡
調査原因	道路建設	担当者	池辺千太郎
調査期間	910425～910831	処置	調査後破壊
調査主体	大分市教育委員会		

位置 園遺跡は大分市大字羽屋字園に所在する。この地域は大分川によって形成された沖積平野であり、大分平野で最大の条里遺構が存在している所である。また、古国府・羽屋地区は上野台地と共に豊後国府跡の推定地として注目される所である。

遺構 住居跡が3軒、掘立柱建物が5棟、溝状遺構が11条、井戸が2本、土壌が21基、柱穴が多数検出された。

掘立柱建物に6×7間、7×2間の規模が見られる。溝状遺構は弥生・古墳・近世に相当する。

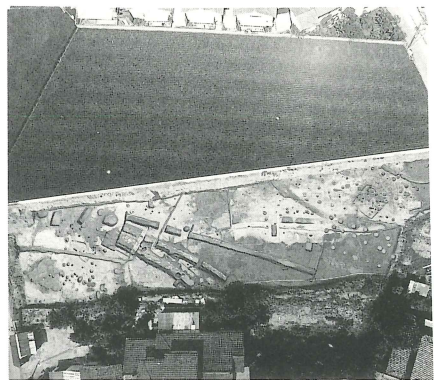
遺物 溝から弥生時代中期の甕、住居跡から5～6世紀の土師器・須恵器が出土している。44号土壌からは8世紀代の須恵器の椀・蓋、土師器の坏が出土している。

まとめ この地は大分郡衙や国府の推定地であるが、今回発見された掘立柱建物がこれに関連するかは今後の周辺地域明の調査によって総合的に検証する必要がある。

文献：池辺千太郎「園遺跡」『大分市埋蔵文化財調査年報』3 1992 P17～18。



園2次遺跡位置図



園遺跡全景

132. 下郡桑苗遺跡2次調査

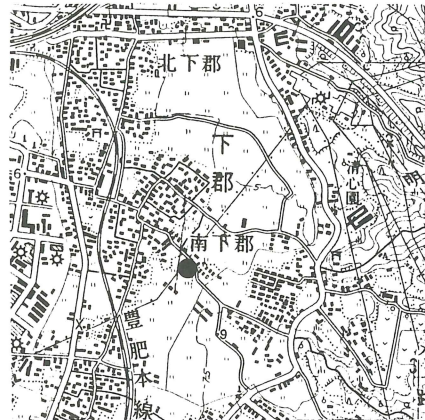
所在地	大分市大字下郡字桑苗	調査面積	230m ²
調査原因	河川改修	担当者	高橋信武・染矢和徳
調査期間	910910～911030	処置	調査後破壊
調査主体	大分県教育委員会		

位置 大分川の下流域にあり、川沿いの自然堤防の背後の低地部に位置する。1988年に水路工事中に発見された。

遺構 1988年に行った第1次調査では、幅8m強の旧河川を検出し埋土中より縄文時代後期と弥生時代前・中期の遺物を発掘した。1991年度は調査区を拡大して調査を行った。

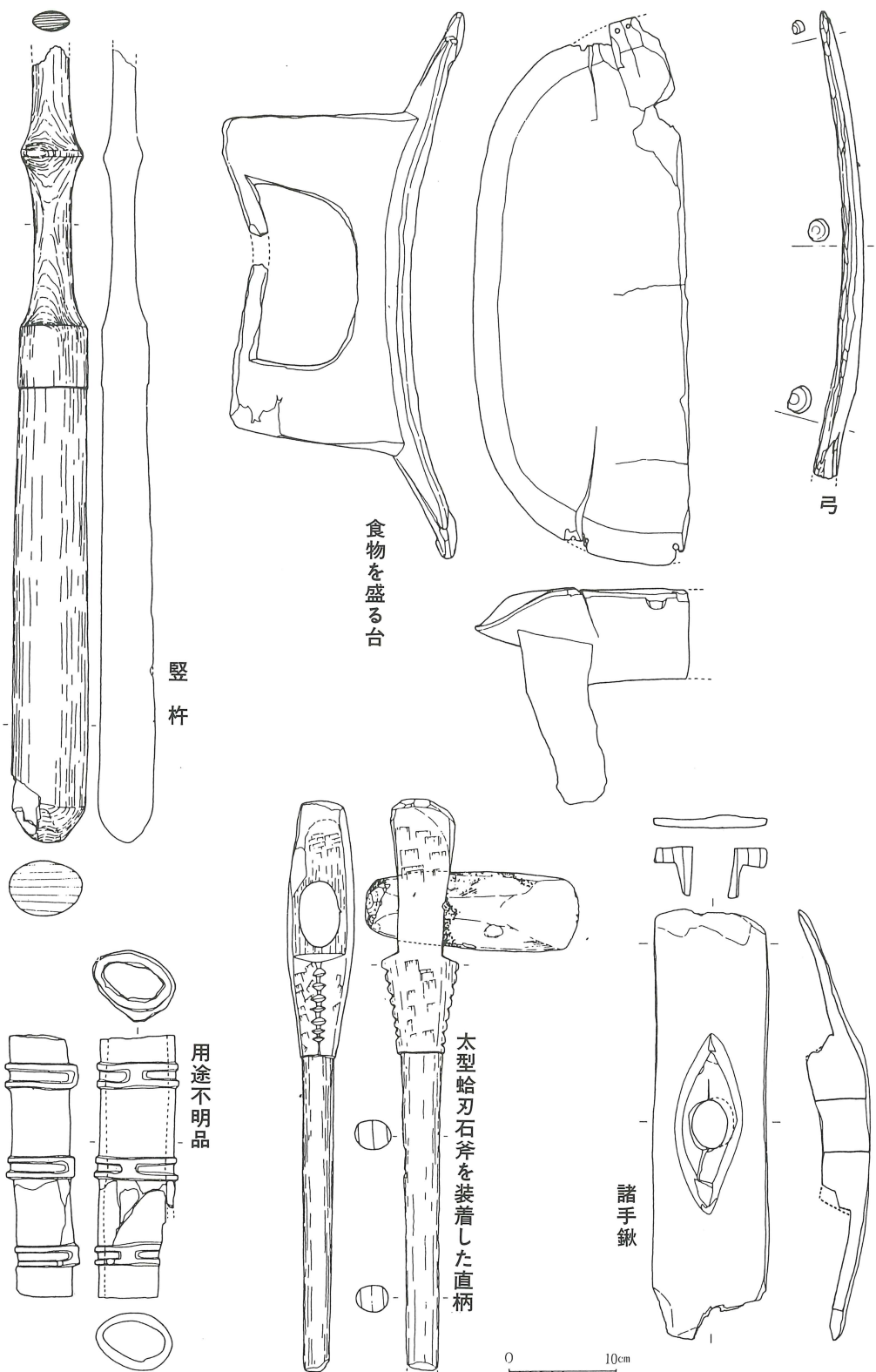
遺物 第1次調査では良好な状態の動物遺体が出土し、弥生文化にブタが存在したことを明らかにした。また県下で初めて弥生前・中期の各種の木製品も出土した。2次調査における出土遺物も基本的には同様である。木製品には鍬・斧の柄・容器・弓・火鑪臼・杵・用途不明品および鍬の未製品などがあつた。樹種同定の結果、木器と樹種との間には強い相関関係が認められた。

まとめ 今回は土壌中の昆虫遺体分析を行い食糞性昆虫・食屍性ないし汚物性昆虫が多いことを確認した。遺跡内に家畜が存在した可能性を裏づける資料であり、遺跡発掘に自然科学的分析を導入する必要性を痛感した。



下郡桑苗

文献：高橋他『下郡桑苗遺跡II』大分県文化財調査報告書第89輯 1992。



竪杵

食物を盛る台

弓

用途不明品

大型蛤刃石斧を装着した直柄

諸手鍬

0 10cm

下郡桑苗遺跡から出土した木製品の一部

133. ^{しもごおり}下郡遺跡群(B区 e・f -13・14地点)

所在地	大分市大字下郡	調査面積	5,300㎡
調査原因	区画整理	担当者	坪根 伸也
調査期間	910401～911226	処置	盛土により保存
調査主体	大分市教育委員会		

位置 遺跡地は大分川の河口近くの標高4～5mの自然堤防上に展開する。今回の調査地点は調査対象範囲のほぼ中央に位置し、平成2年度に調査を行ったB区g-14地点ならびに下郡桑苗遺跡に近接する。

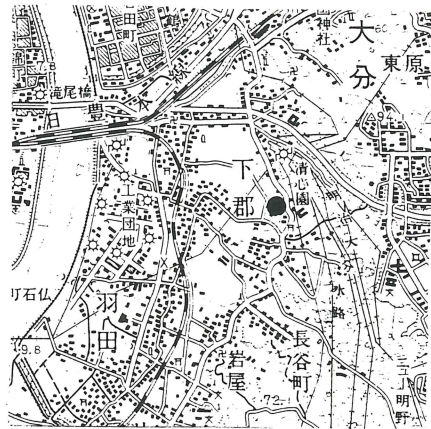
遺構 弥生時代：溝状遺構・竪穴住居址・土壇
古墳時代：竪穴住居址 6
中世：掘立柱建物跡3・溝状遺構
近世：溝状遺構

調査地は後世の削平を広範囲にわたりうけており、遺構の遺存状況は良くない。弥生時代の遺構は中期を中心とし、古墳時代住居址は5世紀の所産となるものである。

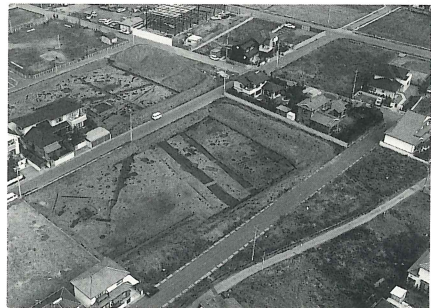
遺物 遺構中から弥生土器（下城式を主体とする）古墳時代土師器・須恵器、中世陶磁器、近世陶磁器が出土する他、古墳時代住居埋土中から滑石製勾玉、石製有孔円盤、ミニチュア土器などの出土が認められる。

まとめ 遺構の遺存状況は概して悪いものの、弥生時代中期の所産となる土壇、古墳時代住居址には比較的まとまった状況で遺物を内包する事例が存在し、当地域における土器編年構築に際し、有効な資料となるであろう。

文献：坪根伸也「下郡遺跡群」『大分市埋蔵文化財調査年報』3 1992 P9～10。



下郡遺跡位置図



下郡遺跡全景

134. ^{ながたに}長谷横穴墓群

所在地 大分市大字羽田字穴井ヶ迫
調査原因 宅地造成
調査期間 911205～920331
調査主体 大分市教育委員会

調査面積 500㎡／50基
担当者 塔鼻光司・池辺千太郎
処置 調査後破壊

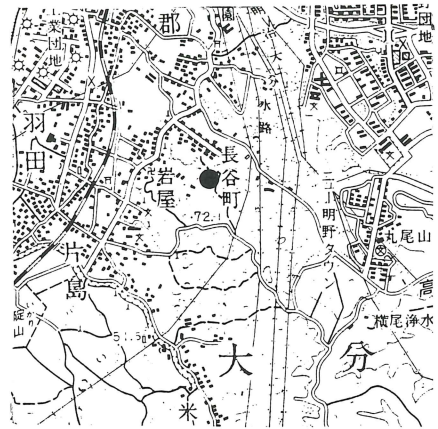
本遺跡は大分平野を流れる大分川の右岸にあり、高城から曲に延びる台地の裾に位置する。このうち横穴墓は標高30～35mに1群で48基、2群で2基、総数50基が分布している。横穴墓の掘削されている地層は下郡層中部～上部にあたり、凝灰質シルト～砂質シルト層をねらって造墓している。

内部は1群で11基が玄室内部が拡張され、奥壁に棚状の掘り込みが見られ、2次的加工が認められる。このため8割近くが当時の原形を留めていないが、未開口の横穴墓も6基確認できた。内部構造は全体的に奥壁が明瞭でアーチ形天井を呈するものや奥壁が不明瞭で玄室と羨道との境のないアーチ形天井を呈する形態も見られる。

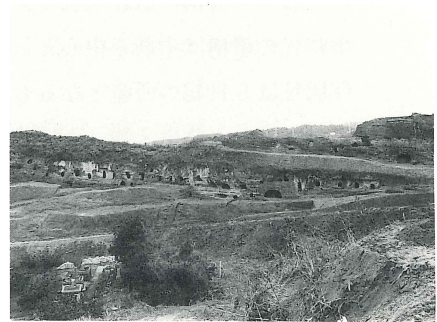
4号墓より耳環、40号墓の前庭部より須恵器の壺、46号墓の前庭部より須恵器の坏蓋、26号墓の玄室内より須恵器の高坏・刀子などが出土している。

大半が開口や2次的加工により原形をうしなっているが2基の横穴墓の前庭部で墓前祭祀が確認された。須恵器や土師器などの供献土器により7世紀代に営まれていることが判明し、この時期における横穴墓の構造・埋葬形態・葬送儀礼の状態など多くのことが確かめられた。

文献：池辺千太郎・塔鼻光司『長谷横穴墓群』1992。



長谷横穴墓群位置図



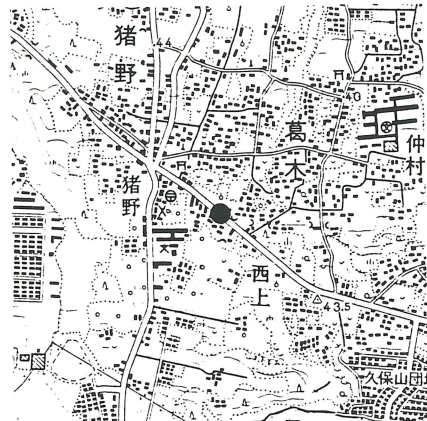
長谷横穴墓群遠景

135. ^{いの}猪野A遺跡

所在地 大分市大字猪野
調査原因 道路建設
調査期間 911009～911011
調査主体 大分県教育委員会

調査面積 約200m²
担当者 栗田 勝弘
処置 計画通り工事

位置 県道大分一臼杵線の拡張工事に伴う物で周知遺跡の猪野遺跡にあたるため試掘調査を実施した。遺構、遺物なし。



猪野A遺跡位置図

136. ^{いの}猪野B遺跡

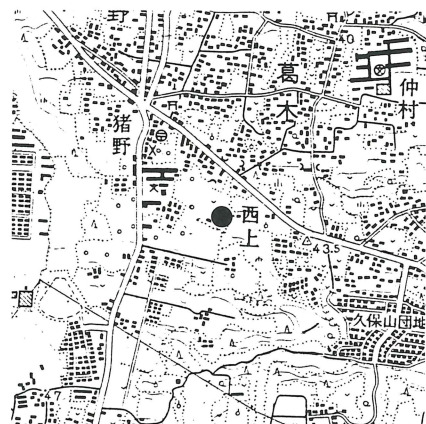
所在地 大分市大字猪野
調査原因 県営住宅建設
調査期間 911018～911206
調査主体 大分県教育委員会

調査面積 約1,000m²
担当者 栗田 勝弘
処置 調査後破壊

位置 明治台地のほぼ中央部、明治小学校のすぐ裏手に当たる。付近には猪野遺跡をはじめ、米良草遺跡など、弥生時代の遺跡は多い。縦横無尽に試掘坑を設定したが遺構、遺物とも僅少であった。後世の削平が顕著である。

遺構 弥生時代：袋状貯蔵穴2基

遺物 袋状貯蔵穴1基から下城式の甕形土器片が少量出土。



猪野B遺跡位置図

137. ^{よねたけ}米竹遺跡

所在地 大分市大字小池原字米竹
調査原因 社員寮建設
調査期間 910425～910731
調査主体 大分市教育委員会

調査面積 500㎡
担当者 塔鼻 光司
処置 調査後破壊

位置 本遺跡は、大分市街地の東約5km、大分市大字小池原字米竹239番2外に所在する。地形的には、西に大分川、東に大野川のそれぞれ下流部が北流し、これにはさまれた標高40m前後の鶴崎丘陵北端の小池原台地上に位置する。

遺構 弥生時代中期：住居跡1軒・貯蔵穴16基
弥生時代後期：溝状遺構3条
住居跡の平面プランは、すでに削平によって失われており柱穴（円形に6本）によってのみ確認された。直径は柱穴間で約7mを測る。

遺物 弥生中期は下城式の甕、後期は複合口縁の壺、有翼器台、ミニチュア土器、磨製石鏃等。

まとめ 今回の調査から、弥生時代中期～後期の集落が確認された。中期の集落は、円形の住居跡とそれに伴うと思われる貯蔵穴群、後期は溝に囲まれた集落など、近隣の調査結果と合わせて遺跡の性格等、総合的な検討が必要であろう。



米竹遺跡位置図



米竹遺跡溝状遺構

文献：塔鼻光司「米竹遺跡」『大分市埋蔵文化財調査年報』3 1992 P14。

138. ^{ありた}有田古墳群

所在地	大分市大字横尾字有田	調査面積	円墳 2 基
調査原因	区画整理	担当者	讃岐 和夫
調査期間	910901～911227	処置	現状保存
調査主体	大分市教育委員会		

位置 現在の海岸線から約 7 kmほど内陸部に横尾貝塚があり、その西側の狭隘な谷間の奥まった鶴崎丘陵上に古墳が 2 基位置している。

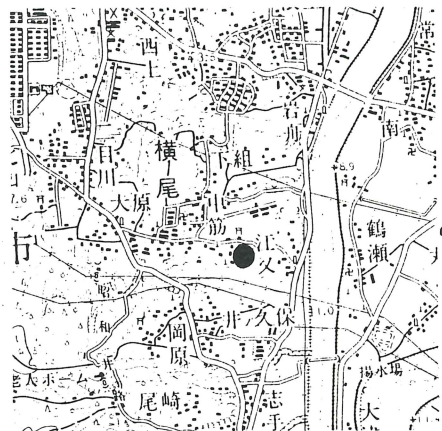
遺構 1号墳は、標高33mで径25m、高さ約 3 mの円墳。主体部はすでに 2 回の盗掘を受けていた。築造は何回もの版築によって盛土をおこない、拳大の石をその表面に葺いている。

2号墳は標高 31.40mで径14m、高さ約 1 m程であった。1号墳と同様に拳大の石を葺いている。

遺物 1号墳は勾玉1、管玉4、ガラス小玉1、鉄剣片2、刀子1、銚片1、土師器の壺片が、2号墳からは、出土遺物は少量であったが須恵器坏片等が出土している。

まとめ 出土遺物から1号墳は5世紀初頭、2号墳は5世紀後半の円墳である。特にこの地区は七塚が存在していたと古くから言い伝えられているが、現状では有田古墳 2 基のみであり非常に重要な遺構である。

文献：讃岐和夫「有田古墳群」『大分市埋蔵文化財調査年報』3 1992 P19～20。



有田古墳群位置図



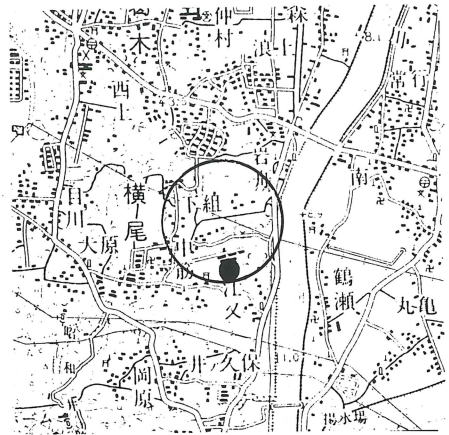
有田古墳群

139. ^{よこお}横尾遺跡

所在地 大分市大字横尾
調査原因 区画整理
調査期間 910501～910930
調査主体 大分市教育委員会

調査面積 1,400㎡
担当者 讃岐 和夫
処置 一部保存

位置 市街地より南東へ約 7.5km、大野川の河口より約 6.5km上流の西側、標高40m前後の鶴崎丘陵上に位置している。横尾地域は、二目川、中筋、下組、岡原の広範からなっており、古くからは縄文時代の横尾貝塚、弥生時代の環濠集落である多武尾遺跡等の数多くの遺跡が所在している。



横尾遺跡位置図

遺構 奈良時代：掘立柱建物 3棟+@
土器溜土壇 1基
溝状遺構 1条
中世：掘立柱建物跡10棟+@
溝状遺構 1条
土壇墓 2基
柱穴群



横尾遺跡

遺物 奈良時代は、掘立柱建物から坏、土器溜から須恵器の甕、甑、カマド、土師器の坏、甕、焼塩壺。中世は、柱穴から天目碗片、土師器の坏、土壇墓からクギ、土師器の坏、溝からスリバチ、磁器片が出土している。

まとめ 奈良時代の遺構は、鶴崎丘陵上では小池原台地の地蔵原遺跡につぐ遺跡である。

文献：讃岐和夫「横尾遺跡」『大分市埋蔵文化財調査年報』3 1992 P15～16。

140. ^{うすづか}白塚古墳

所在地	白杵市大字稲田字林西平	調査面積	25㎡
調査原因	石甲防災施設設置のため	担当者	菊田 徹
調査期間	920120～920201	処置	埋戻しの上盛土保存
調査主体	白杵市教育委員会		

位置 白塚古墳は熊崎川中流域、三重野台地南端に位置している。調査区は石甲防災施設設置予定地である墳丘東側くびれ部から東へ約10mの位置に設定した。

また、防災施設完成後は、石甲を墳丘上から移転させるので、石甲の据付状況を確認するため現状位置に小トレンチを設けた。

遺構 現地表面下80cmから、地山上に直径10～15cm大の礫を敷く敷石が検出された。

遺物 敷石の間から朝顔形、壺形、円筒形の埴輪片が出土している。

まとめ 敷石内には埴輪片の混入する黒色土が詰まっているが、この土からは古墳時代以外の遺物は出土していない。

状況から見てこの敷石は、古墳築造後に人為的に敷かれたものようであるが、いつの時期のものかは不明である。

また、石甲の据付状況を確認したところ、その直下の層から近世瓦、ブリキ玩具が出土しているので、石甲は地元でいわれているとおり、近～現代になってこの場所に置いていることが判明した。



白塚古墳位置図

141. 井村遺跡(高松地区)

所在地	白杵市大字井村字高松	調査面積	453m ²
調査原因	宅地造成	担当者	菊田 徹
調査期間	911001～911105	処置	調査後一部破壊、 一部盛土保存
調査主体	白杵市教育委員会		

位置 遺跡は、東側を流れる熊崎川と南側を流れる末広川との挟まれた状態を呈し、南側には沖積地が広がる。遺跡の西側には標高76mの坊主山が位置している。1952年この山の中腹より広形銅矛7本が出土している。

遺構 弥生時代：竪穴住居跡3
古墳時代：土坑跡3
歴史時代：掘立柱建物跡8
住居跡は弥生後期に属する円形を呈するもの1基、方形を呈するもの2基である。掘立柱建物跡は東西棟、南北棟がそれぞれ1組となって、遺跡内に広がりを見せている。

遺物 弥生後期の壺、器台片等が住居跡より出土。古墳時代後期に属すると思われる須恵器の壺、蓋、坏類はいずれも土坑内より出土している。また、表土中より中国陶磁器の青磁、白磁も出土している。

まとめ 弥生～中世に至るまでの複合遺跡である。掘立柱建物跡が多数検出されたことによってこの地域における歴史時代の集落構造を明らかにする手掛りを得たことになる。



井村遺跡(高松地区=斜線部)位置図



井村遺跡高松地区調査区全景

142. ^{こなかお えんぶくじ}小中尾・円福寺遺跡

所在地 白杵市大字前田字小中尾・ナゴヤ
調査原因 道路建設
調査期間 910617～911121
調査主体 白杵市教育委員会

調査面積 700m²
担当者 菊田 徹
処置 調査後破壊

位置 白杵市の市街地から西へ約2km、白杵川北岸の東西約250m、標高約28mの東西方向に細長くのびる台地上に位置している。遺跡の三方（東・南・北）は、深い谷がめぐっている。また、遺跡東側に白杵湾が一望できる。



小中尾(右)円福寺(左)遺跡位置図

遺構 室町時代：掘立柱列跡1、井戸状遺構1、土坑跡3、溝跡1

井戸状遺構は平面形が1辺約2.5mのほぼ方形を呈す。深さ約2.2mをはかる掘立柱列はL字形に並ぶもので、東西7間+a、南北7間をはかる。溝は柱列の西において南北方向に伸びるもので幅1.3m、深さ約0.5mをはかる。



小中尾遺跡全景

遺物 中世土師質土器の皿・坏、中国陶磁器の青磁皿・碗、白磁皿、備前系播鉢などが出土。いずれも15～16世紀代に比定できる遺物である。

まとめ 遺跡の付近に15世紀後半頃に建立された寺院跡が所在しており、その関連の遺跡(塔頭)である可能性が強い。

143. うすきまがいはつぐんちいき 白杵磨崖仏群地域遺跡

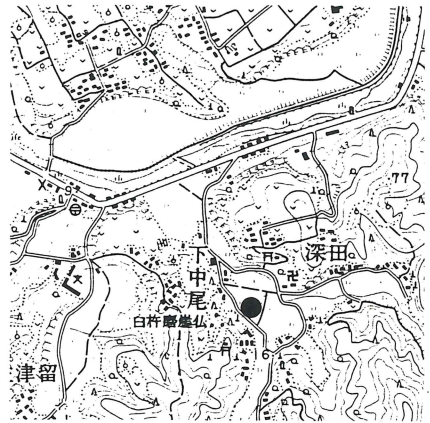
所在地	白杵市大字深田字古園	調査面積	1,200㎡
調査原因	河川改修	担当者	神田 高士
調査期間	910701～920315	処 置	埋戻し保存
調査主体	白杵市教育委員会		

位 置 白杵市深田にある東、西、南の三方を台地と山に囲まれた盆地状の湿地帯である。西側には白杵磨崖仏群が位置している。現状は市有地で将来は公園として整備される計画である。

遺 構 鎌倉初～室町末の遺構が、中心である。周溝1、門状掘立柱遺構3、柵列、井戸1、埋甕遺構2、ほか柱穴多数。

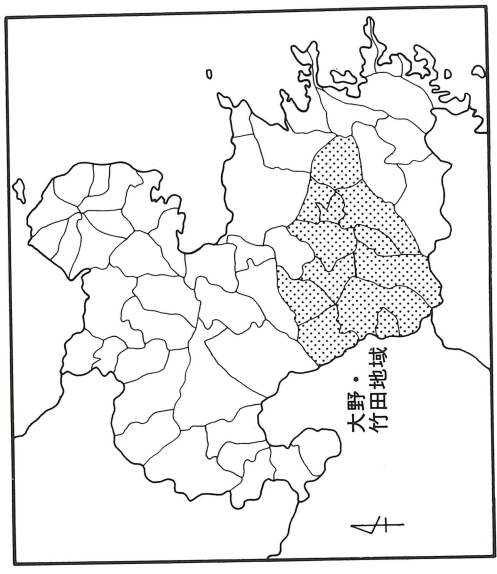
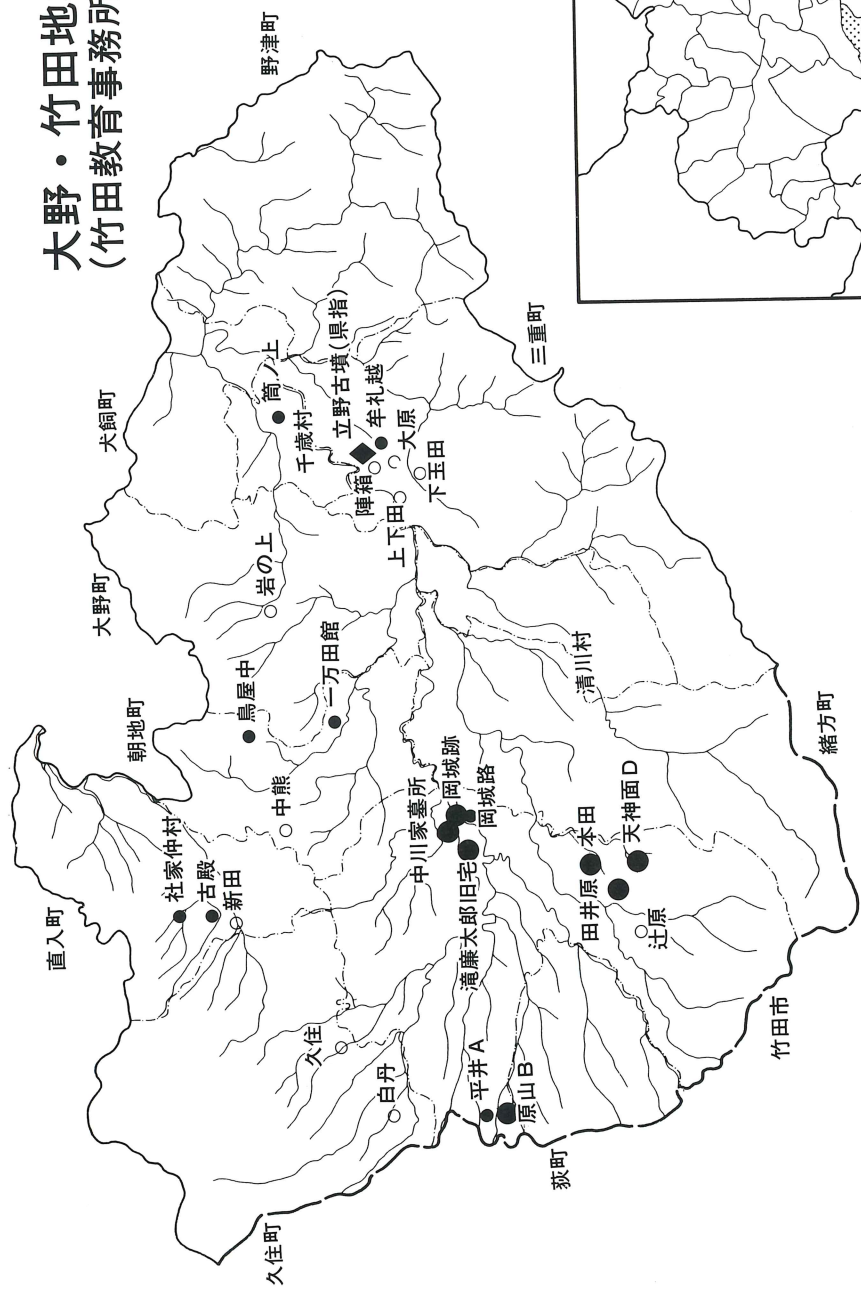
遺 物 いずれも13～16C末の遺物が中心である。土師質土器、瓦質土器が多数出土したほか、中国製青磁、白磁片の出土も多い。輸入陶磁は、13～14Cのものがほとんどである。
このほか特筆すべきものとして土師質のサイコロ、測量具とも考えられる鉄錘が出土している。

まとめ 遺構は、周溝に囲まれた範囲内に集中しており、ここが中世寺院満月寺に関連する建物群の1ブロックであった可能性が強い。遺物の種類や量からみて、寺院にかかわる人々の生活の場であったと思われる。



白杵磨崖仏群位置図

大野・竹田地域 (竹田教育事務所管内)



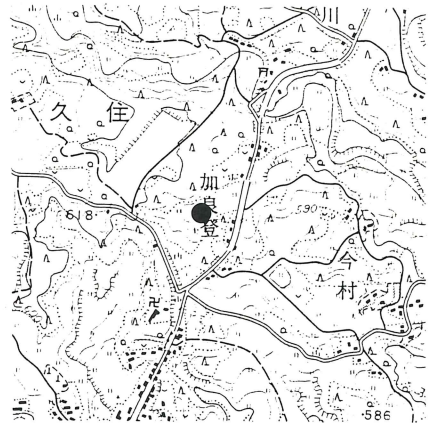
144. 久住・白丹地区

所在地	直入郡久住町大字久住・大字白丹
調査原因	県営圃場整備
調査期間	911105～911107
調査主体	大分県教育委員会
調査面積	150m ²
担当者	後藤 一重
処置	計画通り工事実施

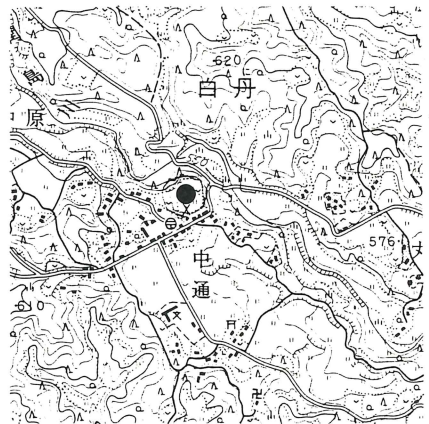
久住町は火山性の台地や谷が入り組み、久住連山のふもとは広い高原がみられる。久住地区は縄文時代後期の遺跡であるコウゴー松遺跡に近接してある。削平地区を中心に調査区を設定したが、谷地形のため、遺構、遺物は確認できなかった。白丹地区は潤島川を臨む台地の端にあり、地形的に遺跡の存在が予想されたが、若干の土器片をのぞき遺構、遺物は検出されなかった。

両地区とも遺構、遺物は確認されず、工事の実施にあたり問題ないと判断した。

文献：後藤一重「久住・白丹地区」『大分県内遺跡詳細分布調査概報』11 1992 P18。



久住地区



白丹地区

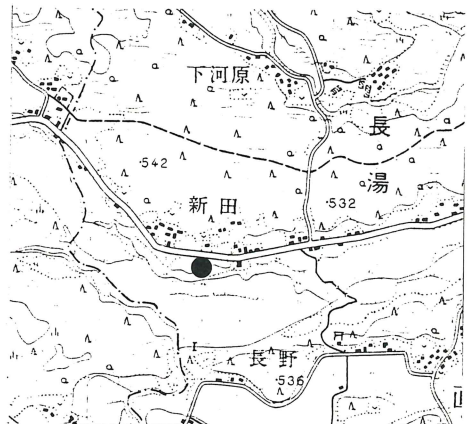
145. 新田遺跡

所在地	直入郡直入町長野字新田
調査原因	農業基盤整備
調査期間	910604～910625
調査主体	大分県教育委員会
調査面積	64m ²
担当者	坂本 嘉弘
処置	計画通り工事

遺跡は大分川の上流である芹川から分かれた市川に面した斜面に位置し、川に近い所は氾濫原になっている。分布調査の際、輸入陶磁器を採集したため、試掘調査を行なった。

調査は、2m×4mの試掘区を8ヵ所設定し、掘り下げを行なった。しかし、堆積土が厚く、遺物の出土はわずかであった。また、川に近い平坦部は明らかに氾濫原で、礫層が耕作土の下から現れた。このため、遺跡は河川の氾濫や水田の造成を受け、調査をしても成果を上げることができないと判断した。

文献：坂本嘉弘「新田遺跡」『大分県内遺跡詳細分布調査概報』11 1992 P17。



新田遺跡位置図

146. ^{ふるどの}古殿遺跡

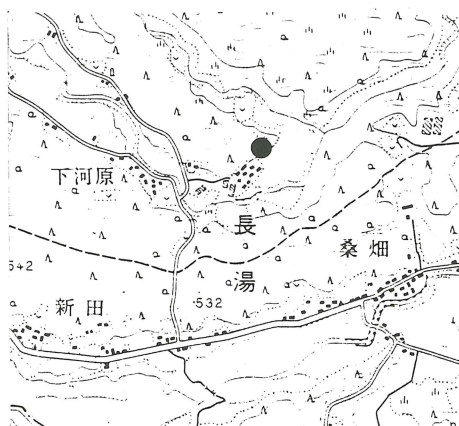
所在地 直入郡直入町下河原字古殿
調査原因 農業基盤整備
調査期間 910604～910625
調査主体 大分県教育委員会

調査面積 20m²
担当者 坂本 嘉弘
処置 削平を浅くして工事

遺跡は九重連山から南東に延びる尾根が大分川の支流の河原川で切断される先端部に位置する。標高は500mで段丘状になっている。

調査は試掘調査の際、土器片の散布が認められたことから実施した、2m×4mの試掘区を5ヵ所設定し、掘り下げを行なった。その結果、いずれの試掘区からも遺物が出土したが、遺物包含層までが1m前後あった。遺物は縄文時代晩期末と平安時代が主体で、右図の土層図で説明すると、Ⅰ～Ⅳ層はこれまでこの地で水田耕作を行なってきた跡で灰色土に赤い酸化鉄の層が重なる。Ⅴ層は砂層でブロックで観察できる。Ⅵ層から遺物包含層で、軟らかい黒色土の中から内黒土器の椀が単純な状態で出土する。そして、Ⅶ層の明灰茶色の中にアカホヤ状の軟質の火山灰が混じる層を間層として、その下のⅧ層の燈色で径7mm前後の火山噴出物が混じる暗茶褐色土層の上位を中心に縄文晩期末の遺物が単純な状態で出土した。

試掘調査の結果、古殿遺跡では良好な状態の遺物包含層が確認された。そこで、農政部と協議をし、地下げを70cmまでに止めてもらうようにした。そして、工事に立ち会い、協議どおりの工事があるか確認を行なった。その結果、地下げはⅡ層内で止まり、遺物包含層は無事に保存することができた。



古殿遺跡位置図

文献：坂本嘉弘「古殿遺跡」『大分県内遺跡詳細分布調査概報』11 1992 P16。

147. ^{しゃげなかむら}社家仲村遺跡

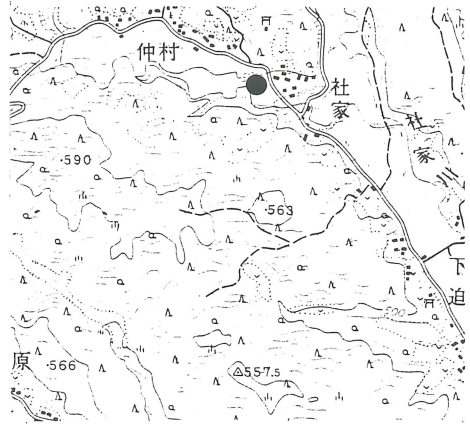
所在地 直入郡直入町社家字仲村
調査原因 農業基盤整備
調査期間 910604～910625
調査主体 大分県教育委員会

調査面積 80m²
担当者 坂本 嘉弘
処置 計画通り工事

遺跡は大分川の上流の支流である社家川から分かれた栗木川沿いの南に傾斜する斜面に立地する。分布調査の際、水田に土器片が散布していたため試掘調査を実施した。

調査は斜面のなかでも比較的平坦な水田部を中心に2m×4mの試掘区を10ヵ所設定し掘り下げを行なった。しかし、斜面のためか黒色土の堆積が厚く、遺物はわずかながら出土するものの、遺構検出面まで掘り下げることができなかった。工事計画と照合しても工事を実施しても問題ないと判断した。

文献：坂本嘉弘「社家仲村遺跡」『大分県内遺跡詳細分布調査概報』11 1992 P17。



社家仲村遺跡位置図

148. ^{なかくま}中熊地区

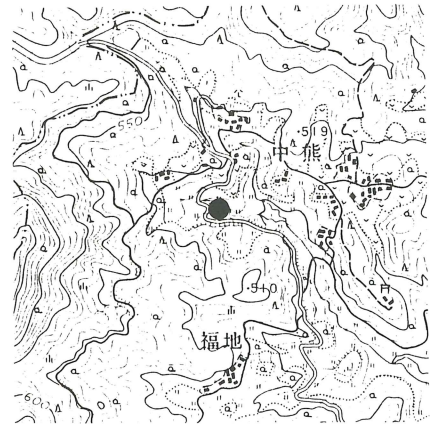
所在地 大野郡朝地町大字中熊
調査原因 県営圃場整備
調査期間 911107～911114
調査主体 朝地町教育委員会

調査面積 約50m²
担当者 宮内 克己
処置 計画通り工事

中熊地区は、朝地町の西部を流れる真竹川の上流域に位置する。この一帯の水田は小規模で複雑な谷部を拓いたもので、細長く不整形な棚田を形成する。標高420～500mの谷部の中で、比較的傾斜が緩やかな所に縄文～弥生期の遺跡が知られることから試掘調査を実施した。

調査は比較的平坦な所を中心に7ヵ所のグリッドとトレンチを配し実施したが、各調査区において遺物、遺構は全て認められず、工事対象区域内に遺跡は存在しない可能性が高いと判断された。

文献：宮内克己『朝地地区遺跡群発掘調査概報』VII 1992 P4～5。



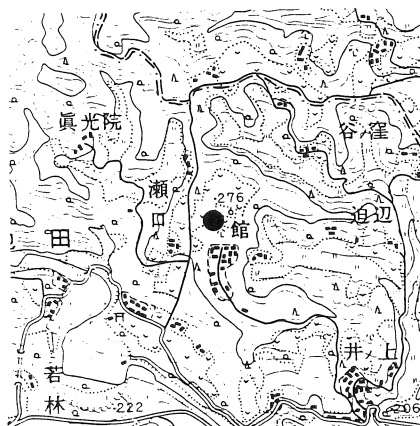
中熊地区位置図

149. 一万田館跡

所在地	朝地町大字池田字館	調査面積	約40㎡
調査原因	確認調査	担当者	宮内 克己
調査期間	920303～920331	処置	保存
調査主体	朝地町教育委員会		

館跡は、朝地町の東部を流れる市万田川下流の右岸、標高 278m の台地上に位置する。一万田氏は豊後大友氏の一族であり、大野荘上村半分を所領し13世紀後半頃に当地に入部したものと思われる。昭和62年度から断続的に館跡の遺構確認調査を実施して来た。その結果、館跡は前面(南側)を掘切り、残りの三方を急な斜面によって囲まれた東西幅約 120～200m、南北長約210～250mの南北にやや長い逆台形状のプランを呈することが判明した。また、館内部に一町四方の主郭が存在することも明らかになったが、主郭の南、東限施設については未確認であった。

今回、主郭の東南コーナー部に調査区を設定し、その確認をめざしたが、3月の記録的な菜種梅雨のため調査は進捗せず、次年度以降再調査となった。



一万田館跡位置図

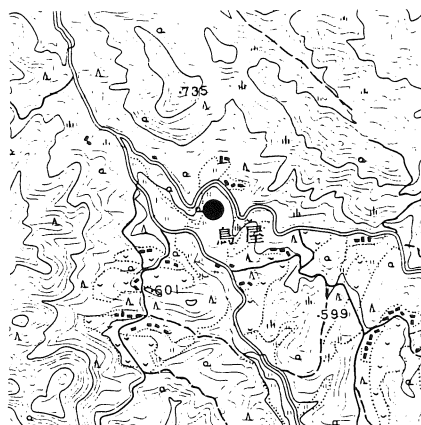
文献：宮内克己『朝地地区遺跡群発掘調査概報』Ⅶ 1992 P 8～10。

150. 鳥屋中遺跡

所在地	大野郡朝地町大字鳥屋	調査面積	約75㎡
調査原因	圃場整備	担当者	宮内 克己
調査期間	911125～911209	処置	保存
調査主体	朝地町教育委員会		

遺跡の所在する鳥屋地区は、朝地町の東北部、標高767mの神角寺と標高774mの城山(鳥屋城)に挟まれた山地の谷部を占める。谷の中央を流れる市万田川添いには比較的平坦な水田が拓かれているが、谷部や山裾部は比高差の大きな棚田が形成されている。工事は平成4年度着工の予定であるが、周辺に縄文時代後期の鳥屋遺跡が存在するほか、工事予定地内で縄文・中世期の遺物が採集されていることから事前調査を実施した。

その結果、山麓部の傾斜変換点周辺で縄文時代早期の良好な遺物包含層を確認した。地形や包含層の予想範囲から本遺跡は小規模なキャンプサイトと考えられるが、地権者の協力により遺跡部分は地区除外とし保存されることとなった。



鳥屋中遺跡位置図

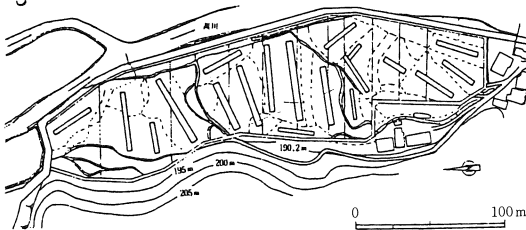
文献：宮内克己『朝地地区遺跡群発掘調査概報』Ⅶ 1992 P 6～7。

151. 岩の上地区 いわのうえ

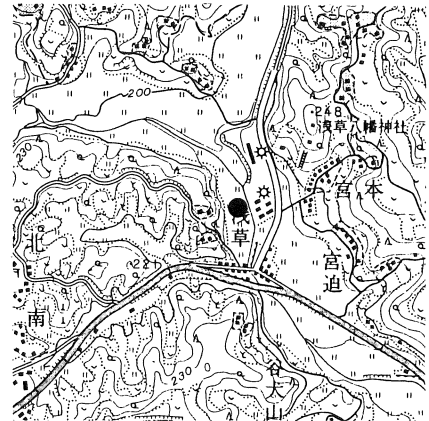
所在地 大野郡大野町大字浅草字岩の上
調査原因 圃場整備
調査期間 920113
調査主体 大野町教育委員会

調査面積 10,000m²
担当者 後藤 幹彦
処置 計画通り工事

当地区は茜川上流部西岸に位置する河岸段丘上。
当地区の試掘調査は、圃場整備事業によって削平を受ける部分を対象とした。調査経過としては、重機によって、19本のトレンチを入れ、その内削平部分の10本については、70~100cmの深掘りを行った。これらの結果、どのトレンチからも遺構を検出・確認できなかった。



岩上地区地形図



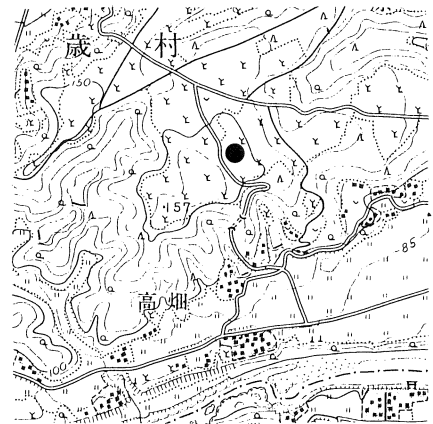
岩の上地区位置図

152. 筒ノ上遺跡 つつのうえ

所在地 大野郡千歳村大字高畑字筒ノ上
調査原因 県営畑総
調査期間 911126~911203
調査主体 大分県教育委員会

調査面積 600m²
担当者 後藤 一重
処置 現状保存

調査対象地区のある鹿道原台地は、千歳村の中でも最も広大な台地で多くの遺跡がみられる。地区内にも筒ノ上遺跡が周知されていることから竪穴住居跡などの存在が予想された。調査は作付の関係からかなり制限されたものになったが、弥生時代中期の円形竪穴住居跡が1基確認された。しかし、その遺構密度は低くかなりの調査区を設定したにもかかわらず他の遺構は確認できなかった。この地区は3年度に工事は実施されず、次年度以降行われることになった。



筒ノ上遺跡位置図

文献：後藤一重「筒ノ上遺跡」『大分県内遺跡詳細分布調査概報』11 1992 P15。

153. ^{ひらい}平井 A 遺跡

所在地	竹田市大字小塚字平井	調査面積	8,000m ²
調査原因	国営水利事業	担当者	佐伯 治
調査期間	911118～911225	処 置	調査後工事施行
調査主体	竹田市教育委員会		

竹田市の西部に位置する管生台地上に立地する。この火山性台地のほぼ中央を東西に国道57号線が走っている。

今回の調査区は、この台地の縁辺部に沿うように幅20～30m、長さ約250mであったが、表土及び攪乱層において比較的多くの出土遺物が採取されたが、遺構の確認はなされなかった。

前回の試掘調査や今回の出土遺物の状況等からみて、今回の調査区の西側、つまり、台地の縁辺から中央にかけては包含層及び遺構が存在するものと思われる。

文献：佐伯治『平井 A 遺跡・原山 B 遺跡』1992。



平井 A 遺跡位置図

154. ^{つじはる}辻原遺跡

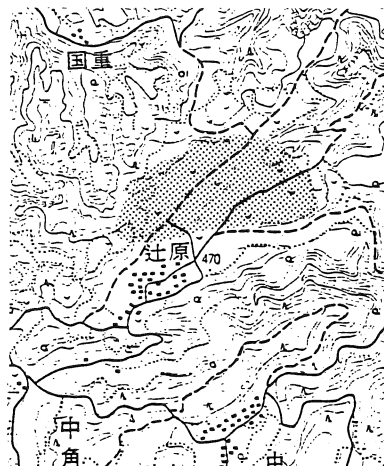
所在地	竹田市大字中角字辻原	調査面積	2,500m ²
調査原因	広域農道建設	担当者	城戸 誠
調査期間	921118～921225	処 置	確認調査後工事施行
調査主体	竹田市教育委員会		

遺跡は、竹田市の南部に位置し、祖母山系の麓に展開する小規模な火山性台地に立地する。

遺跡は、竹田市の南部に計画されている農営団地を結ぶ広域農道整備に伴って、平成元年度から調査が実施されている。平成元年度、平成2年度の調査によって、弥生時代中期後半～後期初頭の住居跡、溝跡等が検出され、この時期の集落跡と推察される。

平成3年度の調査は、遺跡が立地する台地の縁辺部において実施した。調査の方法は、調査区の地形を考慮して幅2～2.5mのトレンチを2本設定し、確認調査を実施した。この結果、時期不明の溝跡が検出されたが、掘り込みや覆土等から最近の所産と考えられた。その他の遺構は検出されず、遺物の出土もみられなかった。

文献：城戸誠『田井原遺跡・辻原遺跡』1992。



辻原遺跡位置図

155. 原山B遺跡 はらやま

所在地	竹田市大字小塚字原山	調査面積	9,500m ²
調査原因	国営水利事業	担当者	佐伯 治
調査期間	911118～911225	処 置	調査後破壊
調査主体	竹田市教育委員会		

位 置 竹田市の西部に位置する菅生台地の南の原山台地上に立地する。この台地の西側は熊本県との県境が目前である。

この火山性台地に立地する原山B遺跡は、奈良時代の住居跡等の調査がなされている。今回の調査区は、この調査区の東南に隣接する。

調査は、導水管理設計画に伴い、その工事にかかる部分を中心として実施し、工事並行に試掘調査を実施した。それにより必要に応じて、本調査を実施した。

遺 構 弥生時代：住居跡2棟

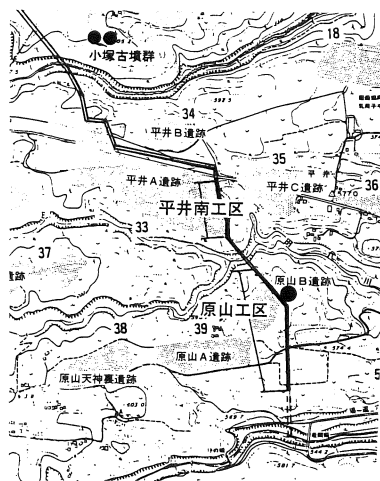
土坑1基

時期不明：溝状遺構3条、柱穴等

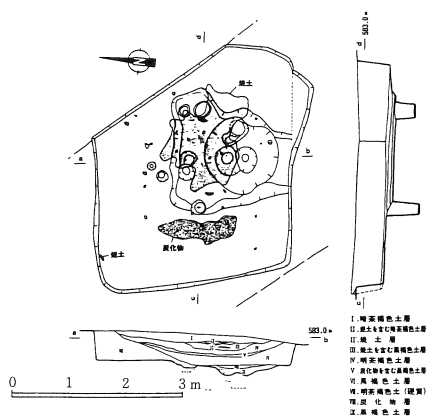
住居跡は、後期の土器を出土しており、この時代の所産と思われる。なお、この出土土器中には、熊本産の甕が含まれていた。

土坑は、不定形と思われるが、攪乱を受けているため、形態がつかみにくい状態であった。時期は、出土遺物から後期と思われる。

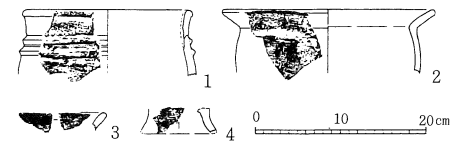
まとめ 今回の調査では、調査区の幅がやや狭く、長い溝状であったため、以前の調査でみられた奈良時代の集落等に肉薄することができなかったが、台地上の縁辺部での弥生時代後期の住居跡検出により、その集落の広がりを考える資料となったと考える。



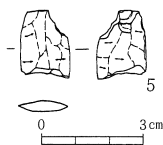
原山B遺跡位置図



原山B遺跡1号竪穴実測図



原山B遺跡1号竪穴
出土遺物実測図



文献：佐伯治『平井A遺跡・原山B遺跡』1992。

156. 滝廉太郎旧宅

所在地	竹田市大字竹田2120-1	調査面積	463㎡
調査原因	滝廉太郎旧宅整備	担当者	佐伯 治
調査期間	910702~910715・911204~911219	処 置	調査結果を基に保存整備
調査主体	竹田市教育委員会		

位 置 滝廉太郎旧宅は、廉太郎が明治24年（1891）12月から明治27年（1894）4月まで居住したところである。12才から14才の間、竹田で生活している。今回の整備計画は、滝廉太郎が居住した建物を当時の姿に保存修理し、庭園等の環境整備も実施しようとするものであった。

また、今回の調査は、その建物の1mの移動に伴って、礎石及び後世の改築により地下構造が必要な部分等の発掘調査を実施した。

加えて、庭園等の環境整備に伴って、事前調査を実施した。

遺 構 土間及び台所遺構の確認

建物の礎石及びその整地層の把握

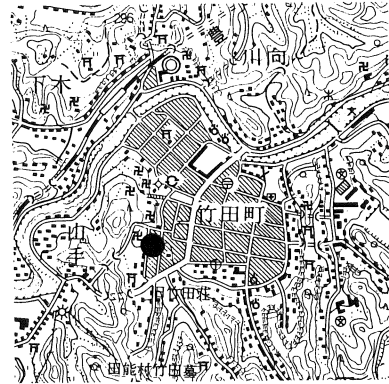
井戸、厩（倉庫）等の付帯施設の確認

今回の調査により以上の確認及び把握を行った。庭園部分として整備される部分については重要な遺構等は認められなかった。

まとめ この旧宅は、廉太郎の父が直入郡長に赴任したことにより、その屋敷となったもので元来は武家屋敷であった。建物の構造調査からみても武家屋敷の特徴が窮えた。

建物は後世の改築により台所部分が不明であったが、発掘調査により土間、焼土等を検出し、建物内の施設が明確となった。

また、郡長屋敷当時の屋敷割及びその広さは、今回の調査では確認することはできなかった。



滝廉太郎旧宅位置図

157. ^{なかがわけほしよ}中川家墓所

所在地	竹田市大字会々字七里	調査面積	2,500m ²
調査原因	史跡公園整備	担当者	城戸 誠
調査期間	910401～910628	処 置	調査結果を基に保存整備
調査主体	竹田市教育委員会		

位 置 中川家墓所は、岡藩主である中川家の菩提寺であった碧雲寺に所在していた。現在の碧雲寺の寺域は、この墓所を含んでおらず、江戸時代より狭い範囲になっている。

この遺跡は、岡城跡の西北に、城下町(市街地)の東南に位置し、岡城跡の北側を流れる稲葉川の氾濫原に立地している。

遺 構 墓域土塀跡：江戸時代

墓前手水鉢の排水施設：江戸時代

9代藩主墓域の排水溝：江戸時代

今回の調査で確認された遺構は、初代、2代、4代、5代、11代藩主墓が存在する墓域の土塀の基礎と土塀の側溝を確認した。土塀に基礎は、片側を石垣の天端とし、片側を板石としていた。更にもその横に側溝の側石が設けられていた。この側溝は、箱型を呈していた。

また、それらの墓地が存在する墓域の前には、手水鉢が設置されており、ここから生じる水は池に排水されていた。その排水溝は、一部を墓道である延段を側石として利用し、底は瓦敷きとしていた。9代墓の裏には、墓域の排水処理として、墓に平行に箱型排水溝が暗渠として池に達していた。

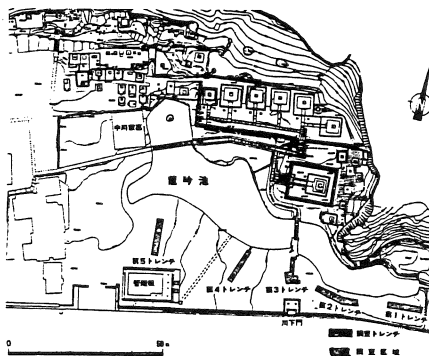
龍吟池の南側は、後世の攪乱が著しく遺構等の想定には至らなかった。

出土遺物としては、池南側の遺構確認トレンチから金箔押瓦が出土している。

まとめ 遺跡の整備は、昭和63年度から実施され、整備に伴う調査も実施してきた。今回の調査は、墓地周辺に巡らされた土塀の確認と各墓域からの排水処理施設の確認調査を実施し、平成3年度に整備が実施される範囲の遺構確認調査を実施した。また、龍吟池の南側の翌年度整備部分の遺構確認調査も実施した。



中川家墓所位置図



発掘調査位置図

158. おかじょうあと 岡城跡

所在地 竹田市大字竹田字岡
調査原因 史跡整備
調査期間 910819～910830・911115～911129
調査主体 竹田市教育委員会

調査面積 670㎡
担当者 佐伯 治
処置 整備の資料化

位置 史跡岡城跡は、岡藩主中川氏の居城である。寛文4年(1664)に西の丸御殿が普請され、現在残っている縄張の基礎が築かれたとされている。この岡城は、稲葉川と白滝川が合流する付近の阿蘇溶結凝灰岩を基盤とする標高約320mの台地上に築かれている。整備は、昭和60年度から着手し、今日に至っている。その主な整備の柱は、石垣の保存修理と遺構復元及び保存整備からなっている。

遺構 平成3年度の整備に伴う発掘調査は、賄方跡下部通路及び西の丸御殿跡西側入口において実施した。

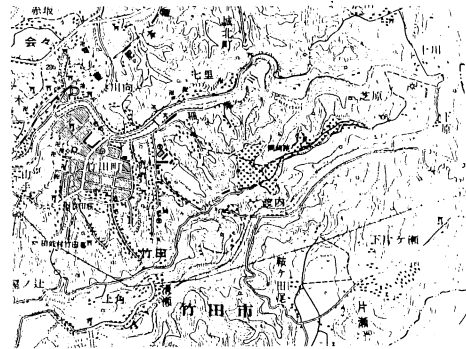
賄方跡下部通路遺構：江戸時代

西の丸入口通路遺構：江戸時代

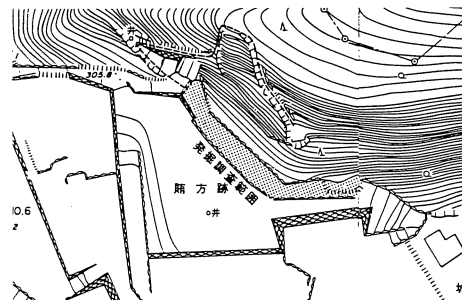
賄方跡下部通路箇所は、長さ60mにわたって調査を実施した。その結果、賄方跡石垣面に2箇所の暗渠から流れ出る排水をうける石垣沿いの側溝、さらに、側溝から通路を横断する暗渠が検出されている。また、側溝沿いには、飛石状の踏石列遺構が約30m確認され、谷沿いでは立石による石列遺構が約22m確認された。これらの遺構は、通路の両端に、しかも平行に長さを揃えた状態で検出された。

西の丸御殿跡西側入口箇所は、近戸門番所跡から西の丸御殿を結ぶ通路内約82mについて調査を実施した。その結果、山側に側溝を配し、谷側にはカマボコ型石畳が延びていた通路を確認した。また、3時期の切り合いを示す排水溝が検出された。

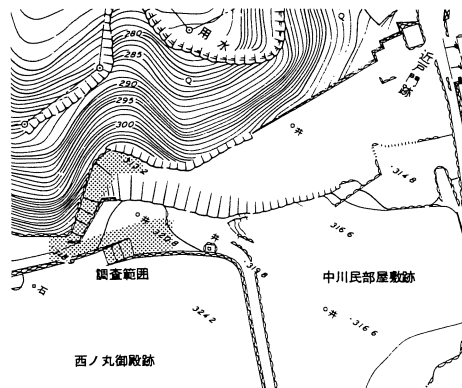
出土遺物としては、近世の陶磁器、瓦等が出土している。瓦には、「菊池」、「小宛熊五郎」等の銘がみられた。この他、石垣の修理に伴って、石垣の基礎及び裏込め確認調査を実施した。



岡城跡位置図



賄方跡調査位置



西の丸入口通跡調査位置

文献：佐伯治『史跡岡城跡』Ⅶ 1992。

159. 本田遺跡 ほんでん

所在地	竹田市大字田井字本田	調査面積	4,000m ²
調査原因	県営圃場整備	担当者	城戸 誠
調査期間	920128～920227	処 置	調査後破壊
調査主体	竹田市教育委員会		

位 置 竹田市南部に位置し、丘陵の裾部に立地する。丘陵の裾部での遺構の検出は、大野川上流域では稀なケースである。

調査により弥生時代後期の住居跡3棟、時期不明の溝跡2条を検出した。

遺 構 弥生時代：住居跡3棟

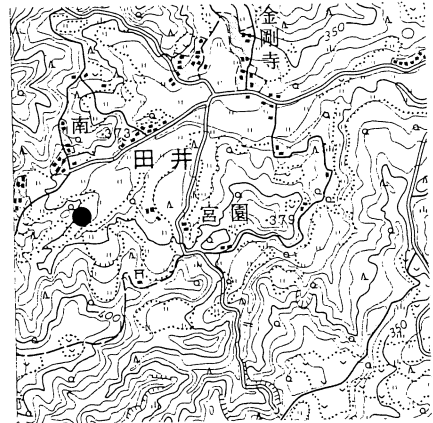
時期不明：溝跡2条

住居跡は、出土遺物が少なく時期決定が不明確であるが、少量の土器及び磨製石鏃及び未製品等の出土からその時期を弥生時代後期とした。

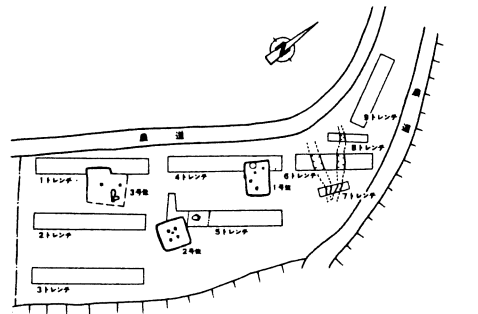
検出された住居跡の1棟は、いわゆる火災住居で、柱穴の上位に柱の炭化状況が窮えた。また、東壁付近では、磨製石鏃及びその未製品等が集中して出土している。出土土器からこの時期は、後期前半と思われる。

まとめ 従来の調査結果から、大野川上流域の弥生時代の集落形成は、台地上及び丘陵上を基盤として展開することが考えられていたが、今回の調査のように丘陵裾部に、しかも谷と真近に接するところに集落形成がなされていた。

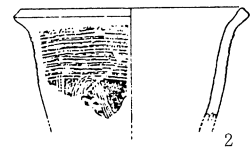
この集落形成が後期前半とすると、この時期の集落は、集落を営むには貧弱な地形で水を確保するための地形的選択を優先し、集落構成規模の貧弱なもの、台地上を舞台として展開していくある程度の規模を有する集落とが存在するようであるが、これが後期後葉以降になると台地上に集落の舞台が集中するようになると思われる。さらに、この現象が発展的に見られるのが菅生台地であろうと考える。



本田遺跡位置図



遺構位置図



出土遺物実測図

文献：城戸誠『竹田地区南部遺跡群』Ⅲ 1992。

160. 田井原遺跡

所在地	竹田市大字田井字原	調査面積	2,600m ²
調査原因	広域農道建設	担当者	城戸 誠
調査期間	910925～911220	処置	調査後破壊
調査主体	竹田市教育委員会		

位置 竹田市南部に所在し、辻原遺跡同様の立地条件下にある。辻原遺跡に近く、その間は直線距離で約1kmである。

遺跡は、農営団地を結び広域農道建設に伴って、平成元年度から調査が実施されている。今回の調査区は、遺跡が立地する台地の縁辺部にあたる。

遺構 弥生時代：住居跡7棟

時期不明：溝跡6条、土坑、柱穴

住居跡は、出土遺物から概ね弥生時代後期前半の時期が考えられる。その形態には、2段の堀込みのものとそうでないもの（1段堀込み）が存在した。

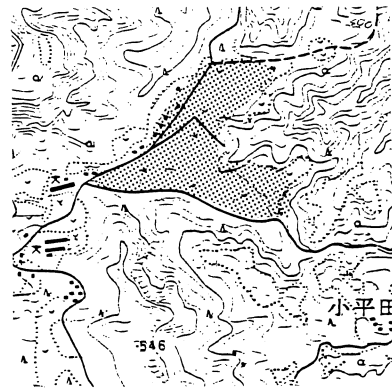
遺物 遺物は、土器、石器等で主に住居跡から出土している。土器は、粗製甕で口縁部付近に3条乃至4条の突帯をもつものである。石器は、磨製石鍬のチップや未製品、完形品が出土し、石材は結晶片岩であった。砂岩製の砥石も出土している。

まとめ 田井原遺跡は、以前の調査結果を含め、弥生時代後期前半～後葉の集落形成が営まれたことが推測される。

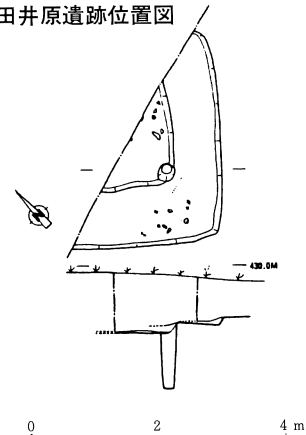
南部地区での弥生時代の集落形成は、太田原遺跡や辻原遺跡において中期後半～終末には集落形成の兆しがみられる。特に、辻原遺跡では、現段階での調査結果からは、中期後半～終末の時期の集落形成が考えられ、以後の形成は確認されていない。

また、この時期の住居跡は、2段掘りにより構築されている。住居跡からは、熊本産の土器が多く出土している。田井原遺跡での今回の調査は、辻原遺跡でみられる2段掘りの住居跡に加え、1段の通常の掘り込みの住居跡が共伴することを認めれば2段掘り住居跡の画期による集落形成の展開が窺いしれる資料としての価値が考慮できよう。

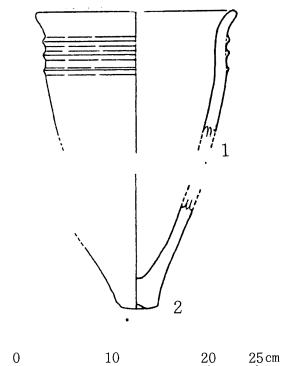
文献：城戸誠『竹田地区南部遺跡群』Ⅲ 1992。
城戸誠『田井原遺跡・辻原遺跡』1992。



田井原遺跡位置図



3号住居跡実測図



3号住居跡出土土器実測図

161. てんじんめん いせき 天神面遺跡D地区

所在地	竹田市大字倉木字天神面	調査面積	8,300m ²
調査原因	県営圃場整備	担当者	城戸 誠
調査期間	910703～910924	処 置	調査後破壊
調査主体	竹田市教育委員会		

位 置 遺跡は、緒方町に隣接する竹田市南部の倉木地区に所在し、祖母山系から派生する標高約320mの丘陵上に立地している。倉木地区は、中央に、十角川による段丘によって谷水田が形成されている盆地状の地形をなしている。この谷水田を臨む高台に天神面遺跡D地区は位置している。

遺 構

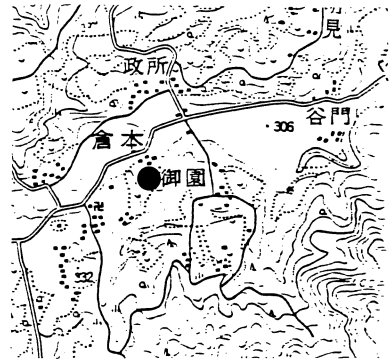
縄文時代：竪穴（住居跡を含む）	17基
土坑	5基
弥生時代：竪穴（住居跡を含む）	7基
溝	2条
古墳時代：竪穴（住居跡を含む）	11基
中 世：掘立柱構築物	10基
近 世：溝	1条

以上のような遺構等が検出される複合遺跡であり、集落遺跡とみることができよう。このような長い時代にわたっての集落遺跡が確認されたのは、大野川上流域では初例である。

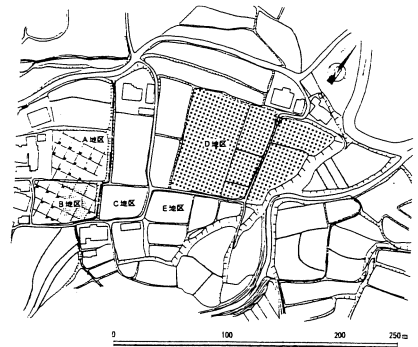
まとめ 今回の調査した天神面遺跡D地区は、大野川上流域の縄文時代から中世に至る多くの歴史資料を提供するものと思われる。

縄文時代は、広範囲にわたる集落遺跡の存在を確認し、大野川上流域での縄文時代後期後半の集落形態をつかむ上において現時点において他に例をみないものである。時間的変遷による住居形態の把握がなされれば資料成果の薄い縄文時代の発掘調査において大きな成果となろう。

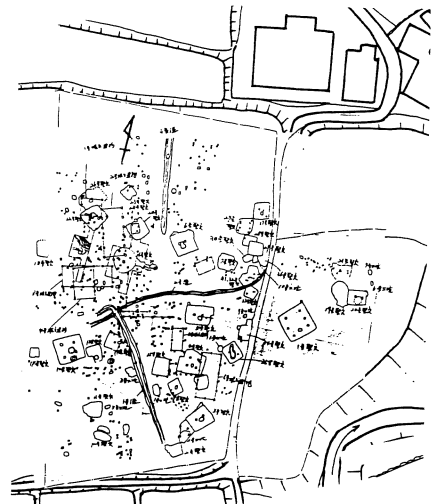
古墳時代の成果としては、大野川上流域の調査例に乏しく不明な点が多い中において今回の調査は貴重なものである。住居の形態において大野川上流域では、6世紀後半には竈の存在が知られており、この出現直前の住居形態を知ることができた。



天神面遺跡位置図



天神面遺跡地形図



天神面D地区遺構配置図

162. ^{しせきおかじょうあとしゅうへん}史跡岡城跡周辺遺跡

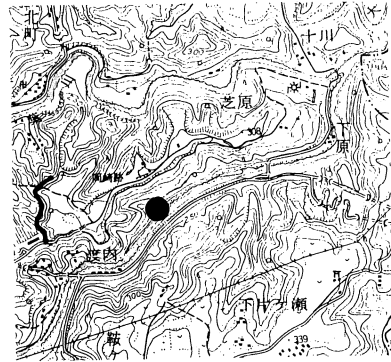
所在地	竹田市大字竹田字滑瀬	調査面積	330m ²
調査原因	都市計画、観光開発	担当者	佐伯 治
調査期間	920203～920312	処 置	現状保存
調査主体	竹田市教育委員会		

調査は、都市計画及び観光開発の事前の遺跡確認調査として実施した。実施した地区は、岡城跡の南に位置し、白滝川の左岸の滑瀬橋橋台跡と総役所跡（現駐車場）から近戸口へ通じる通路部分にあたり、橋台跡、通路跡等の確認調査を実施した。

滑瀬橋の橋台跡は、平成2年の水害時に崩壊し土砂に覆われた状態であった。今回の調査で、石垣で築かれな橋台の下部を検出した。

通路跡は、絵画にはみられたが、現地の状況では差ほど明確ではなかった。岡城跡の動線計画の一端を担うとして近戸門から駐車場を結ぶこの通路の整備が計画された。このため通路としての遺構の現状把握が必要となった。調査は、要所にトレンチを設定し、通路跡の確認をおこなった。この結果、通路面及び路肩の確認がなされた。

トレンチ以外の部分は、工事並行により確認を行い整備の資料とした。



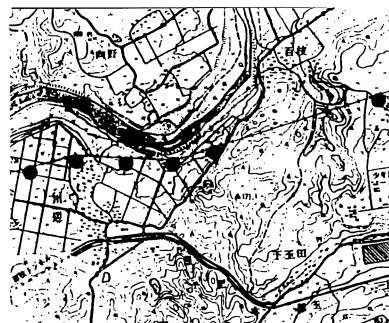
岡城跡位置図

163. ^{かみしたた}上下田遺跡ほか

所在地	大野郡三重町大字川辺字上下田ほか	調査面積	2,000m ²
調査原因	鉄塔建設	担当者	諸岡 郁
調査期間	910903～911122	処 置	工事实施
調査主体	三重町教育委員会		

町中心部より北東側の大野川右岸の河岸段丘上に位置する。周囲には旧石器の上下田遺跡、川辺遺跡ほか至る所から土器石器の出土が伝えられている。鉄塔建設という事情から、狭範囲の数ヵ所に及ぶ調査対象地から上下田遺跡付近のほか遺跡の所在が予想される6ヵ所を調査区とし、試掘調査を行った。

水田耕作地だったためか、遺物包含層が削平されており、遺物は何も出土しなかった。その他の調査区も表土から若干の土器片が出土したにとどまり、本調査は必要なしと判断した。



上下田遺跡位置図

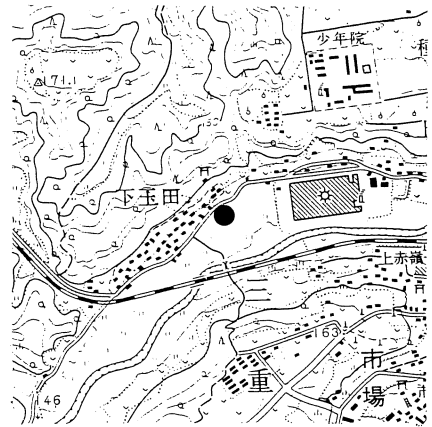
164. ^{しもたまだ}下玉田地区

所在地 大野郡三重町大字玉田字玉田前・岡田
調査原因 町道拡幅
調査期間 911126～911206
調査主体 三重町教育委員会

調査面積 180m²
担当者 諸岡 郁
処置 工事実施

町中心部の西側の沖積盆地内に位置する。周知遺跡ではなかったが、現状が圃場整備されていない水田であり、遺構・遺物が依存している可能性があるため、試掘調査を行った。

幅3m、長さ15～25mの3本のトレンチ状に表土剥ぎを行ったが、耕作土から若干の土器片が出土した程度で全体的に攪乱されており、遺構は全く検出できなかった。遺跡の痕跡はみられないため、本調査は必要なしと判断した。



下玉田地区位置図

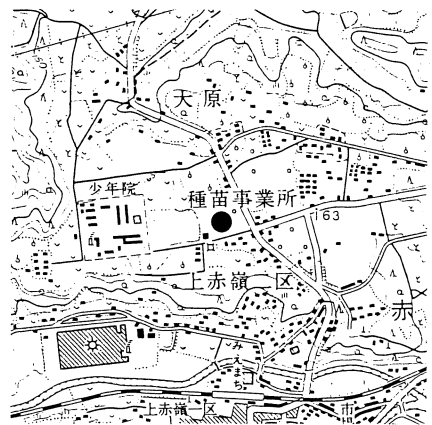
165. ^{おおはる}大原地区

所在地 大野郡三重町大字百枝字大原山
調査原因 グランド造成
調査期間 910516～910528
調査主体 三重町教育委員会

調査面積 500m²
担当者 諸岡 郁
処置 工事実施

町中心部より北側の通称大原と呼ばれる広大な台地上にある。周知遺跡ではなかったが、大野川流域の各台地上には多くの遺跡が所在している状況から、この大原にも遺跡の存在の可能性が高いとみられていた。

2.2haの調査対象地に幅4～5m、長さ約100mのトレンチ状に表土剥ぎを行ったが遺構らしいものは何も検出できなかった。部分的に攪乱されているとはいえ、遺物もまったく出土しなかったため、遺跡の痕跡はみられず、本調査は必要なしと判断した。



大原地区位置図

166. ^{むれんこし}牟礼越遺跡

所在地 大野郡三重町大字百枝字牟礼越
調査原因 土砂採取
調査期間 920122～920204
調査主体 三重町教育委員会

調査面積 2,230㎡
担当者 諸岡 郁
処置 現状保存

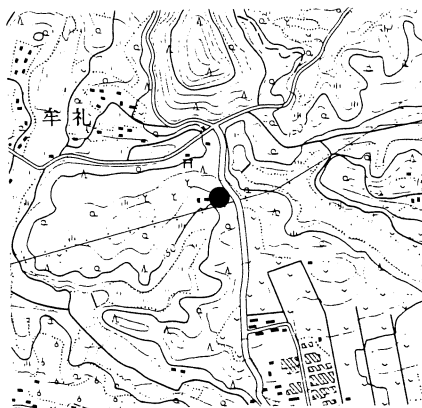
位置 町中心部から北へ約1kmの地点にあり、標高約164mの丘陵上にある。周囲は北西・南東側は火山性の台地上に続く尾根状となっており、それ以外の方向は谷底平野となっている。北側は中世の墳墓群がある大辻山麓があり、谷をひとつ隔てた大野川右岸に百枝遺跡や陣箱遺跡がある。その他周囲には火山性の台地が発達しているため、まだ多くの遺跡があるものと思われる。

ここは周知遺跡でなかったが、1990年頃、一部土砂採取を実施した際に旧石器が採取され、91年に遺跡として確認された。その後再び土砂採取が予定されたため、試掘調査を実施した。

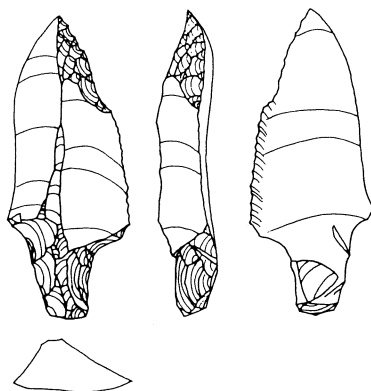
遺物 最初の表採で流紋岩製剥片数個とともに剥片尖頭器が確認されている。長さ8.2cm、幅3.2cmで基部と先端右側辺部に調整剥離が施され、典型的な形態を呈する。

試掘でも旧石器時代の剥片数点が出土したが、縄文早期の土器片もあらたに出土した。遺構は未確認であるが、縄文早期の土器は一部集中していたため、住居跡等が存在する可能性がある。

まとめ 大野川流域の遺跡は台地や盆地内等平地上に多くみられていたが、このような丘陵上も旧石器から縄文にかけて長期に渡る生活の場であったことが確認された。今後このような場所の開発にも注意していく必要がある。



牟礼越遺跡位置図



牟礼越遺跡出土遺物

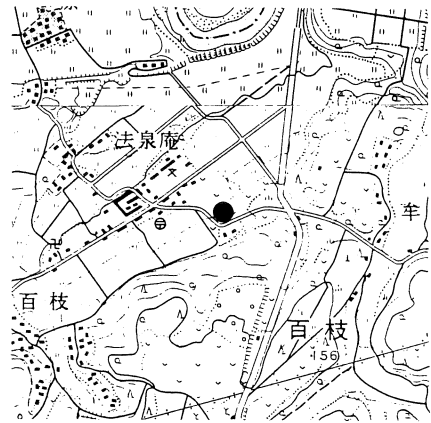
167. 陣箱遺跡

所在地 大野郡三重町大字百枝字陣箱
調査原因 農道建設
調査期間 910919～911005
調査主体 三重町教育委員会

調査面積 160m²
担当者 諸岡 郁
処置 工事実施

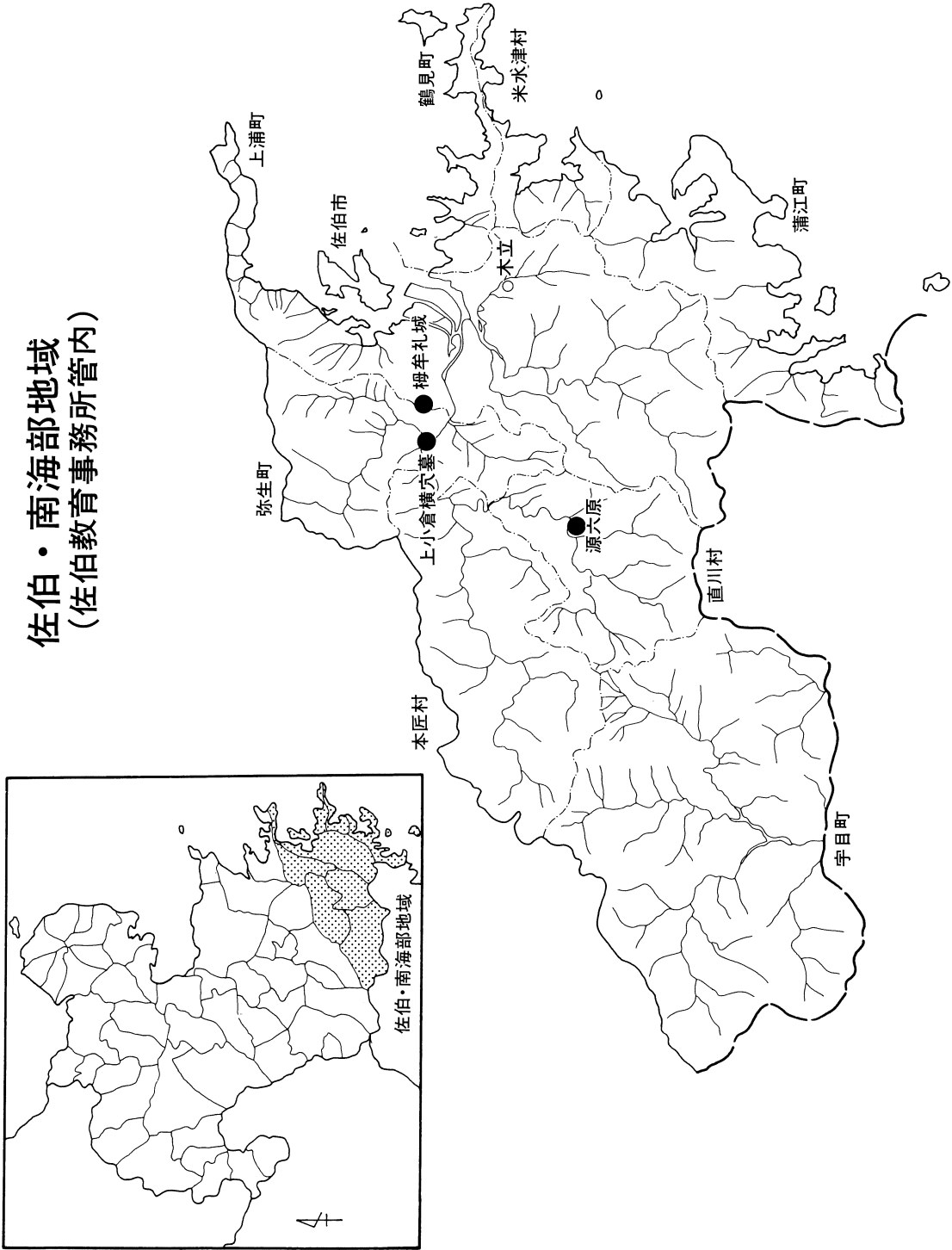
町中心部より北側の大野川の河岸段丘の上部に位置し、弥生後期の集落遺跡である陣箱遺跡や旧石器時代の百枝遺跡のすぐ南側が調査区である。このうち陣箱遺跡の範囲に含まれる可能性が大きいと、試掘調査を行った。

幅約2m、長さ40mの2本のトレンチ状に表土剥ぎを行ったが、遺構・遺物はまったく検出できなかった。土層の堆積は良好だったにもかかわらず遺跡の痕跡はみられないため、本調査は必要なしと判断した。



陣箱遺跡位置図

佐伯・南海部地域
(佐伯教育事務所管内)



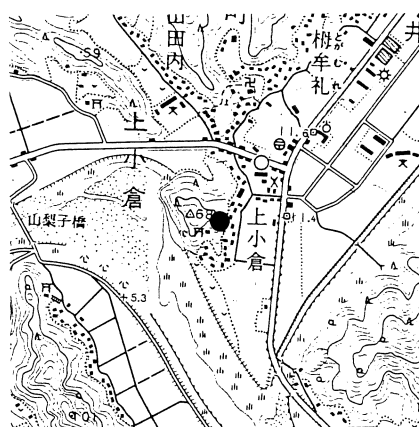
168. ^{かみ おくら}上小倉横穴墓

所在地 南海部郡弥生町大字上小倉字小倉
調査原因 急傾斜地崩壊対策事業
調査期間 910701～911228
調査主体 弥生町教育委員会

調査面積 10m²
担当者 出納 司
処置 保存

横穴墓群は県南を流れる番匠川左岸の小高い丘の東面山腹の凝灰岩壁に設けられているが、石切場や防空壕、イモツボ等で破壊されたものが多い。

調査は平成2年より継続されているが、今回は防空壕に転用された横穴墓の調査を実施し、コンクリート吹付工事は旧状を残す方向で実施された。



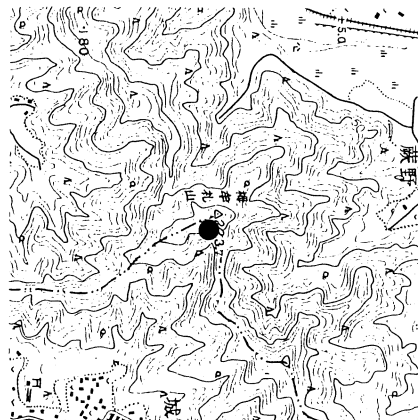
上小倉横穴墓位置図

169. ^{とがむれ}梅牟礼城遺跡

所在地 佐伯市大字稲垣字梅牟礼
調査原因 観光開発
調査期間 911129～920320
調査主体 佐伯市教育委員会

調査面積 0.11km²
担当者 宮内克己・山田健一
処置 航空写真測量

梅牟礼城は東西2km・南北2kmに裾野を広げる中世の山城で、中世佐伯氏一族が領国経営の拠点としたところであるが、本丸や二の丸に連なる各支峰には竖掘や掘切等の遺構が近世になっても改変されずそのまま保存されている。近年、この山城を中心にした大型の観光開発や林道建設が計画されているので、緊急に梅牟礼城の範囲と規模を確認し、遺跡を保存するための基礎資料をうるために、本年度は主要遺構部の平面図を航空写真測量により作成した。



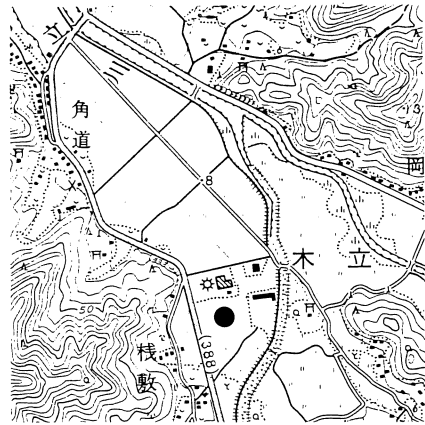
梅牟礼城遺跡位置図

170. 木立地区^{きたち}

所在地 佐伯市大字木立
調査原因 県営圃場整備
調査期間 911024～911107
調査主体 佐伯市教育委員会

調査面積 約270m²
担当者 宮内 克己
処置 計画通り工事

木立地区は、佐伯市の東部を流れる木立川の中流域に位置する。工事対象面積約5haのほぼ全域に3×3mのグリッド29を配し、遺跡の確認調査を実施した。その結果、全ての調査区において遺構は全く認められず、遺物も近世期以降の陶磁器が少数出土したにすぎない。従って、工事の実施にあたり問題はないものと判断された。



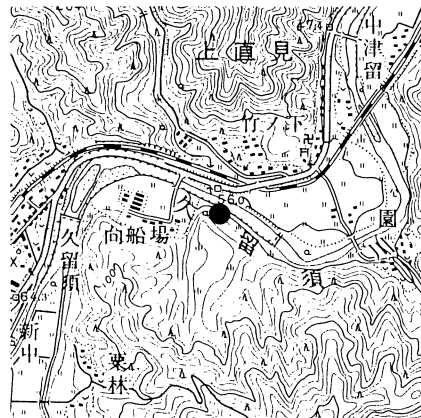
木立地区位置図

171. 源六原遺跡^{げんろくばる}

所在地 南海部郡直川村大字上直見字源六原
調査原因 町営ファミリースポーツ公園建設
調査期間 910410～911031
調査主体 直川村教育委員会

調査面積 10,000m²
担当者 高橋 徹
処置 調査後破壊

位置 久留須川左岸の独立丘陵上。
遺構 縄文時代早期の遺物包含層、竪穴1基、集石遺構数基。竪穴式住居跡10軒以上（弥生、古墳時代）
遺物 縄文早期土器多数、石器（石鏃、環状石斧1個他）、弥生式土器、土師器多数。
まとめ 県南で数少ない弥生～古墳初頭の集落跡として注目される。
 押型文遺跡としても大規模である。



源六原遺跡位置図

IV 現地説明会・展示会・講演会・シンポジウム等一覧

1. 現地見学会

名 称	主 催	内 容	期 日	参加人数
中原遺跡現地説明会	宇佐市教委	縄文・弥生・古墳・奈良時代などの集落である中原遺跡の説明	6月15日	約60人
虚空蔵寺瓦窯跡現地説明会	宇佐市教委	白鳳寺院虚空蔵寺跡より出土する創建期の瓦を焼いた窯跡ならびに周辺関係遺跡の説明	2月9日	約50人
光岡城跡現地説明会	宇佐市教委	天正時代の山城跡の史跡整備の意義や光岡城の歴史的背景など	12月23日	約40人
スキサキ遺跡現地説明会	豊後高田市教委	弥生時代集落遺跡の説明	9月2日	約250人
玖珠町内遺跡見学会	玖珠町教委	町内の周知遺跡の説明	11月10日	約70人
鷹巣横穴群現地説明会	玖珠町教委	発掘調査の見学	12月1日	約40人
白岩遺跡現地説明会	大分県教委	弥生時代の環豪とノロシ跡の遺跡	12月21～23日	約500人
エゴノクチ遺跡現地説明会	大分県教委	旧石器・縄文時代・中世の遺跡	8月20日	約50人
賀来中学校遺跡現地説明会	大分市教委	発掘調査の見学	5月24日	約130人
賀来中学校遺跡現地説明会	大分市教委	発掘調査の見学	5月27日	約160人
下郡遺跡現地説明会	大分市教委	発掘調査の見学	11月30日	約50人
臼杵磨崖仏(古園石仏)保存修理現地説明会	臼杵市教委	古園石仏保存修理工事の成果を現地で説明	11月10日	約50人
臼杵石仏群地域遺跡発掘調査現地説明会	臼杵市教委	深田川河川改修工事に伴う発掘調査の現地説明	12月8日	約50人
塔ノ熊廃寺現地説明会	三光村教委	新羅系瓦が出土する塔ノ熊廃寺の説明		20人

2. 展 示 会

名 称	主 催	内 容	期 日	会 場	見学人数
平成3年おおいた 話題の資料展	県立宇佐風 土記の丘歴 史民俗資料 館	平成3年度に話題となっ た各種資料の展示 宇佐市川部遺跡・豊後高 田市智恩寺遺跡・風土記 の丘京塚地区出土品など	3月18～ 4月12日	歴史民俗 資料館	2,475人
宇佐市発掘速報展	宇佐市教委	虚空蔵寺瓦窯や向山古墳 発掘調査の出土遺物展示	11月20～ 12月3日	宇佐文化 会館展示 室	約500人
古代史発掘・宇佐	宇佐市教委	宇佐の歴史を誇る各時代 の出土遺物や写真パネル の展示	11月27～ 12月30日	大分銀行 長州支店	約300人
安心院町文化祭	安心院町教 委	宗禅寺遺跡の遺物の展示 説明	11月3～ 4日	安心院町 中央公民 館	約400人
特別展 安国寺弥生ムラ —大分県の稲作 ルーツを探る—	大分県教委 国東町教委	安国寺集落遺跡を中心と した大分県下の農業関係 遺物の展示	11月16～ 12月10日	国東町歴 史民俗資 料館	約100人
玖珠町出土遺物見 学会(中学生対象)	玖珠町教委	町出土の遺物等を説明	7月10日	資料室	約80人
第1回 考古部門特別展 日田盆地の遺跡 —平成2年	日田市立博 物館	市内で発掘調査された遺 跡の紹介	5月25～ 6月9日	日田市立 博物館	820人
第1回 埋蔵文化財速報展	大分市教委	最新の発掘資料の展示・ 記念講演会他	8月7～ 11日	コンパル ホール	約3,000人
古代豊前の 仏教文化	三光村教委	古代豊前地方における仏 教文化の流れ	91年3月	三光村中 央公民館	60人

3. 講演会・シンポジウム

名 称	主 催	講 師	内 容	期 日	会 場	参加人数
第12回 市民講座 東アジアと弥生文化	中津市教委	西谷 正	東アジアから見た日本の弥生文化とその交流	11月25日	中津信用金庫	約100人
シンポジウム 「中世の村と現代」	県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	水藤 真 石井 進 海老沢衷	全国の主要荘園村落遺跡調査からみた成果と課題	10月19～ 20日	早稲田大学国際会議場	延べ 700人
シンポジウム 「中世の村と現代」	大分県教委 県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	石井 進 海老沢衷	荘園村落遺跡と地域振興	10月27日	豊後高田市教委	約300人
宇佐市文化講演会	宇佐市教委	王 金林 賀川光夫	中国からみた九州・宇佐の弥生文化や宇佐の古代仏教文化などについての講演	11月20日	宇佐文化会館	約230人
国際シンポジウム 東アジアにおける弥生文化と安国寺集落遺跡	国東町 国東町教委	賀川光夫 王 金林 沈 奉謹 小田富士雄 苅谷俊介	東アジアにおける弥生文化と安国寺集落遺跡の位置づけ	11月17日	大分空港ホテル	約300人
歴史講演会	臼杵市教委	王 金林 賀川光夫	中国から見た弥生式文化	11月21日	臼杵市中央公民館	約400人
日韓シンポジウム 「先史・古代の日韓交流と大分」 －弥生～古墳時代の文明交流～	大分県教委	賀川光夫 尹 容鎮 小田富士雄 崔 秉鉉 西谷 正	大分の弥生・古墳時代の遺跡から出土した朝鮮半島系の遺物より日韓の交流の歴史を討論	2月2日	大分市コンパルホール	約500人
文化財保護の現状と課題 －古墳の保存法を中心として－	佐賀関町教委	—	佐賀関町に残存する古墳等の説明と保存法	2月10日	佐賀関町公民館	約 30人

4. 研 修

研 修 名	主 催	場 所	内 容	参加者
埋蔵文化財発掘技術者研修－文化財写真課程－	奈良国立文化財研究所	同 左		友岡 信彦 (大分県教委)
大分県埋蔵文化財担当者研修会	大分県教育委員会	大分市法華クラブ		県・市町村の埋蔵文化財担当者
城郭調査課程	奈良国立文化財研究所	同 左		玉永 光洋 (大分市)

V 1991年度の史跡指定埋蔵文化財一覧

指定区分	遺 跡 名	所 在 地	指 定 日
国指定	安国寺遺跡	東国東郡国東町大字安国寺1635番地他	1992年4月3日
県指定	立野古墳	大野郡三重町大字上田原字立野444番地他	1992年3月27日

VI 掲載遺跡一覧表

(遺物・遺構の量を○(有)、◎(多量)で記す)

番号	遺跡名	所在地	旧石器時代	縄文時代			弥生時代			古墳時代			飛鳥時代	奈良時代	平安時代		鎌倉・南北朝	室町時代	江戸時代
				草	早	前	中	後	晩	前	中	後			前	中			
1	灌校進脩館跡	中津市1367番地																	◎
2	相原廃寺	中津市大字相原3657番地他											◎						
3	沖代桑里跡	中津市中央町											◎						
4	原遺跡	中津市大字如水字原										◎							
5	十前垣遺跡	中津市大字丸字十前垣										◎							
6	中原遺跡	中津市大字中原字神原										◎							◎
7	東ノ浦遺跡	中津市大字永添字東ノ浦										◎							
8	大池南遺跡	中津市大字賀来										◎							
9	大丸川遺跡群 第5地点・第6地点	中津市大字福島字小平									◎								
10	佐知久保田遺跡	三光村									◎								
11	諫山遺跡	三光村									◎								
12	外園遺跡	三光村																	
13	美濃尾遺跡	三光村																	◎
14	塔ノ熊廃寺	三光村																	
15	下屋形遺跡	本耶馬溪町大字下屋形																	◎
16	下戸原遺跡	耶馬溪町大字戸原字下戸原																	
17	田良川遺跡	山国町大字草本字田良川																	
18	狩宿遺跡	山国町大字守美字狩宿																	
19	室田遺跡	宇佐市大字佐野																	◎
20	光岡城跡	宇佐市大字光岡																	
21	小部遺跡	宇佐市大字荒木																	◎
22	京塚古墳群	宇佐市大字京塚																	
23	川部遺跡	宇佐市大字川部																	◎
24	野口遺跡5次	宇佐市大字上田																	
25	東上田遺跡	宇佐市大字上田																	
26	向山古墳	宇佐市大字山下																	

番号	遺跡名	所在地	旧石器時代	縄文時代			弥生時代			古墳時代			飛鳥時代	奈良時代	平安時代		鎌南北朝	室町時代	江戸時代
				草	早	前	中	後	晩	前	中	後			9・10	11・12			
27	中原遺跡	宇佐市大字中原		◎				◎						◎	○			○	
28	下林遺跡	宇佐市大字山本		○									○	◎				○	◎
29	虚空藏寺跡	宇佐市大字山本												◎					
30	切寄遺跡	宇佐市大字山本												◎					
31	サヤ遺跡	宇佐市大字サヤ		◎					○					◎					
32	古渡遺跡	宇佐市大字山本																	
33	宇佐神宮境内(真乗坊跡)	宇佐市大字南宇佐																○	○
34	宇佐神宮境内(旧勅使斎館)	宇佐市大字南宇佐														○			○
35	小坂遺跡	院内町大字小坂																	○
36	副地区	院内町大字副																	
37	宮ノ原遺跡(三女神社境内)	安心院町大字下毛											○						
38	原遺跡	安心院町大字原										○							
39	三口田遺跡	安心院町大字下毛																	
40	西大久保遺跡	安心院町大字久井田							○										○
41	妻垣ムナソリ遺跡	安心院町大字妻垣																	
42	宗禪寺東遺跡	安心院町大字新原									○								
43	笹ヶ平遺跡	安心院町大字笹ヶ平																	○
44	尾立前田遺跡	安心院町大字尾立																	○
45	ソノ田A遺跡	豊後高田市大字来縄																	
46	ソノ田B遺跡	豊後高田市大字来縄																	
47	イセグ遺跡	豊後高田市大字大力																	
48	小樋遺跡	豊後高田市大字松行																	
49	スキサキ遺跡	豊後高田市大字新城																	
50	智恩寺跡	豊後高田市大字鼎字堂山他							○							◎			○
51	御霊遺跡	香々地町大字香々地字御霊														○			
52	土上遺跡	香々地町大字香々地字土上														○			
53	過ノ本遺跡	香々地町大字香々地字過ノ本							○										
54	荒牧遺跡	香々地町大字香々地字荒牧																	

番号	遺跡名	所在地	旧石器時代	縄文時代						弥生時代			古墳時代		飛鳥時代	奈良時代	平安時代		鎌北倉朝	室町時代	江戸時代						
				草	早	前	中	後	晩	前	中	後	前	中			後	9・10				11・12					
55	信重遺跡	香々地町大字香々地字信重																○									
56	古城得遺跡	西国東郡大田村大字沓掛字古城得																									
57	岡ノ前遺跡	西国東郡大田村大字沓掛字岡ノ前																									
58	伊勢白遺跡	国見町大字中字伊勢白																									
59	森洲遺跡	国見町大字中字森洲																									
60	城屋敷遺跡	国見町大字中字城屋敷																									
61	下通遺跡	国見町大字中字下通																									
62	中岐部遺跡	国見町大字中字中岐部																									
63	ワラミノ遺跡	国東町大字大恩寺																									
64	千正遺跡	国東町大字北江																									
65	足曳山両子寺境内	安岐町大字両子1548番地																									
66	中野工区	安岐町大字明治字中野																									
67	久末京徳遺跡	安岐町大字朝来144																									
68	延吉遺跡	安岐町大字下山口字延吉																									
69	小熊山古墳	杵築市大字狩宿																									
70	御塔山古墳	杵築市大字狩宿																									
71	日出東部地区	日出町大字大神字秋貞・軒の井																									
72	鹿跡遺跡	日出町大字藤原字大津																									
73	天堤遺跡C・D地区	日出町大字藤原字百合野																									
74	東洋サッシ	日出町大字藤原字大津																									
75	尾形第1遺跡	日出町大字南端																									
76	エゴノクチ遺跡	日出町大字南端																									
77	尾形第2遺跡	日出町大字南端																									
78	扇山遺跡	別府市大字内籠字扇山																									
79	羽室遺跡	別府市大字羽室字東平																									
80	吉祥寺跡	別府市大字別府字乙原																									
81	小迫辻原遺跡	日田市大字小迫字辻原																									
82	萩鶴遺跡	日田市大字友田字萩鶴																									

番号	遺跡名	所在地	旧石器時代	縄文時代			弥生時代			古墳時代			飛鳥時代	奈良時代	平安時代		鎌倉北朝	室町時代	江戸時代
				草	早	前	中	後	早	中	後	前			中	後			
83	日田条里遺跡群	日田市大字三和字五反田																	
84	後迫遺跡	日田市																	
85	羽野横穴群	日田市天神町										○							
86	天神尾遺跡	日田市元宮																	
87	七ツ枝遺跡	日田市大字東有田字七ツ枝																	
88	慈眼山瀬戸口遺跡	日田市城町2丁目						○									○		○
89	大迫遺跡	日田市大字有田字大迫																	
90	平島遺跡	日田市						○											
91	上野切畑山遺跡	日田市上野町字切畑山																	○
92	陣ヶ原遺跡	日田市陣ヶ原																	
93	大部遺跡	日田市大字高瀬字手崎						○											○
94	手崎遺跡	日田市大字高瀬字手崎					◎												◎
95	会所宮遺跡	日田市大字田島字其田					◎												◎
96	惣田遺跡	日田市琴平町惣田																	○
97	四日市地区	玖珠町大字四日市																	
97	谷ノ瀬遺跡	玖珠町大字戸畑字谷ノ瀬																	○
98	白岩遺跡	玖珠町																	
99	鷹巣横穴群	玖珠町大字帆足字鷹巣																	○
100	下綾垣遺跡	玖珠町大字綾垣字下綾垣																	○
101	下綾垣遺跡横穴墓群	玖珠町大字綾垣字下綾垣																	○
102	池ノ原遺跡	玖珠町大字綾垣字池平																	○
103	上ノ原横穴墓群	玖珠町大字帆足																	○
104	瀬戸古墳群	玖珠町大字帆足																	○
105	瀬戸遺跡	玖珠町大字瀬戸字帆足																	○
106	治別当遺跡	玖珠町大字四日市字治別当																	○
107	四日市地区	玖珠町大字四日市																	○
108	小田遺跡	玖珠町大字小田1057																	
109	伐株山城跡	玖珠町大字万年山																	

番号	遺跡名	所在地	旧石器代	縄文時代			弥生時代			古墳時代			飛鳥時代	奈良時代	平安時代 9-10 11-12	南北朝	室町時代	江戸時代
				草	早	前	中	後	晩	前	中	後						
110	大隅地区	玖珠町大字大隅1700																
111	高(恵良城)城跡	九重町大字恵良字高城															○	◎
112	都原遺跡	九重町大字引地字都原				◎												
113	向原遺跡	岐間町大字鬼崎字向原																○
114	下志村遺跡	大分市大字大在字下志村						○										
115	小原横穴墓	大分市大字中尾											○					
116	賀来中学校遺跡	大分市大字賀来																
117	賀来城跡	大分市大字国分・中島地区														○		
118	庄の原遺跡	大分市大字荏隈字庄の原						○								◎		
119	植田市遺跡(N区)	大分市大字市																○
120	植田市遺跡	大分市大字市																○
121	東田室遺跡	大分市南春日町																○
122	府内城三の丸跡	大分市府内町																◎
123	上野遺跡	大分市大字三芳																◎
124	園遺跡2次	大分市大字羽田字園																○
125	下郡遺跡群B区 ef-13・14	大分市大字下郡																○
126	長谷横穴墓群	大分市大字羽田字穴井ヶ迫																○
127	猪野A遺跡	大分市大字猪野																◎
128	猪野B遺跡	大分市大字猪野																○
129	米竹遺跡	大分市大字小池原239																◎
130	有田古墳群	大分市大字横尾																○
131	横尾遺跡	大分市大字横尾																○
132	白塚古墳	白杵市大字稲田																○
133	井村遺跡(高松地区)	白杵市大字井村字高松																○
134	小中尾・円福寺遺跡	白杵市大字前田字小中尾・ナゴヤ																◎
135	白杵磨崖仏群地域遺跡	白杵市大字深田																
136	白丹地区	久住町大字白丹																
136	久住地区	久住町大字久住																

番号	遺跡名	所在地	旧石器時代	縄文時代			弥生時代			古墳時代			飛鳥時代	奈良時代	平安時代		鎌南北朝	室町時代	江戸時代
				草	早	前	中	後	晩	前	中	後			前	中			
137	新田遺跡	直入町大字長野字新田																	
138	古殿遺跡	直入町大字下河原字古殿																	
139	社家仲村遺跡	直入町大字社家字仲村																	
140	中能地区	朝地町大字中能																	
141	一万田遺跡	朝地町大字池田字館ち																	
142	鳥居中遺跡	朝地町大字鳥居																	
143	岩の上地区	大野町大字浅草字岩の上																	
144	筒ノ上遺跡	千歳村大字高畑字筒ノ上																	
145	平井A遺跡	竹田市大字小塚字平井																	
146	辻原遺跡	竹田市大字中角字辻原																	
147	原山B遺跡	竹田市大字小塚字原山																	
148	滝廉太郎旧家	竹田市大字竹田2120-1																	
149	中川家墓所	竹田市大字会々字七里																	
150	岡城跡	竹田市大字竹田字岡																	
151	本田遺跡	竹田市大字田井字本田																	
152	田井原遺跡	竹田市大字田井字原																	
153	天神面遺跡D地区	竹田市大字倉木1517																	
154	史跡岡城跡周辺遺跡	竹田市大字竹田																	
155	上下田遺跡ほか	三重町大字川辺字上下田																	
156	下玉田地区	三重町大字玉田字玉田前・岡田																	
157	大原地区	三重町大字百枝字原山																	
158	牟礼越遺跡	三重町大字百枝字牟礼越																	
159	陣箱遺跡	三重町大字百枝字陣箱																	
160	上小倉横穴墓	弥生町大字上小倉字小倉																	
161	梅牟礼城跡	佐伯市大字稲垣字梅牟礼																	
162	木立地区	佐伯市大字木立																	
163	源六原遺跡	直川村大字上直見字源六原																	

VII 1991年度の埋蔵文化財関係文献一覧

A 大分県教育委員会

- 栗田勝弘ほか『成田尾遺跡・今村遺跡・馬場尾遺跡—大分空港道路建設に伴う発掘調査報告書II—』大分県文化財調査報告書88 1992.3
- 高橋 信武編『下郡桑苗遺跡II—弥生時代のブター—』大分県文化財調査報告書89 1992.3
- 後藤 一重編『大分県内遺跡詳細分布概報』11 1992.3
- 坂本 嘉弘『慈眼山瀬戸口遺跡』平成3年度国家公務員宿舎日田住宅2号棟建設に伴う発掘調査概報 1992.3
- 清水 宗昭ほか編『樋多田遺跡・森山遺跡・寺迫遺跡』一般国道10号中津バイパス埋文調査報告3 1992.3
- 小林 昭彦編『伊藤田古窯跡群』一般国道10号中津バイパス発掘調査報告書4 1992.3
- 原田 昭一『一般国道10号宇佐別府道路建設に伴う発掘調査概報』IV 1992.3
- 村上・友岡編『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報—日田～玖珠間—』2 1992.3
- 吉田 寛『植田市遺跡V』七瀬川河川改修工事に伴う発掘調査概報 1992.3
- 田中 裕介『手崎遺跡 大部遺跡』一般国道210号日田バイパス建設に伴う発掘調査概報III 1992.3
- 坂本 嘉弘編『遺跡が語る大分の歴史—大分県の埋蔵文化財—』1992.3
- 宮内 克己編『日韓シンポジウム 先史・古代の日韓交流と大分』1992.2

B 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館

- 小柳 和宏ほか『国東六郷山智恩寺発掘調査報告書』宇佐歴史報告書9 1992.3
- 飯沼 賢司編『豊後国都甲荘の調査—資料編—』宇佐歴史報告書10 1992.3
- 『宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 1990年度』1991.8
- 真野 和夫「免ヶ平古墳再生」『U S M』26
- 小柳 和宏「智恩寺」『U S M』28

C 市町村教育委員会

- 村上 久和編『ボウガキ遺跡』三保の文化財を守る会・中津市教育委員会 1992.1
- 栗焼憲児・棚田昭仁『藩校進脩館跡・相原廃寺跡・中原遺跡』中津地区遺跡群発掘調査概報IV（中津市文化財報11）中津市教育委員会 1992.3
- 植田 由美『三光地区遺跡群発掘調査概報』II 三光村教育委員会 1992.3
- 小倉正五・佐藤良二郎・江藤和幸『山下横穴墓群・中原遺跡』一般国道387号改良に伴う発掘調査概報 宇佐市教育委員会 1991.6
- 林 一也・江藤和幸『下林遺跡』一般国道10号宇佐道路建設に伴う発掘調査概報III 宇佐市教育委員会 1992.3
- 林 一也『虚空蔵寺遺跡』一般国道10号宇佐別府道路建設に伴う発掘調査概報II 宇佐市教育委員会 1992.3
- 佐藤良二郎『宇佐地区遺跡群発掘調査概報—川部遺跡・小部遺跡8次—』宇佐市教育委員会 1992.3
- 『真玉の文化財』真玉町教育委員会・真玉町文化財調査委員会 1991.7
- 『国東町の文化財』国東町教育委員会 1992.3
- 島田 正浩編『大隈遺跡』国東町文化財報告9 国東町教育委員会 1992.3
- 藤本 啓二『国東地区遺跡群発掘調査概報』III 国東町教育委員会 1992.3
- 丸山 啓子『光広遺跡』安岐町文化財調査報告2 安岐町教育委員会 1992.3
- 『はるかなる安岐郷 ふるさとの文化遺産』安岐町教育委員会 1992.3

- 清水宗昭・平川伸也・後藤方彦『杵築地区遺跡群発掘調査概報Ⅲ』杵築市調査報告4 杵築市教育委員会 1992.3
- 『別府市の文化財と保護樹』別府市教育委員会・別府市文化財調査員会 1992.3
- 『日田盆地の遺跡—平成2年度の発掘調査から—』第1回考古部門特別展パンフレット 日田市立博物館 1991.5
- 行時 志郎編『長者原田迎遺跡』日田市調査報告5 日田市教育委員会 1992.3
- 行時 志郎『上野切畑山遺跡』日田市調査報告6 日田市教育委員会 1992.3
- 『九重町の考古資料』文化財調査報告18 九重町教育委員会 1992.3
- 坂本 嘉弘「飯田高原の遺跡」P1～15
- 内恵克彦・竹野孝一郎「九重町の考古資料」P17～76
- 池辺千太郎『上野遺跡』大分市教育委員会 1991.9
- 讃岐・坪根編『大分市埋蔵文化財調査年報2—平成2年度—』大分市教育委員会 1991.12
- 『タイムトラベラー91』第1回埋蔵文化財速報展パンフ 大分市教育委員会 1991.8
- 『大分市文化財だより』創刊号 大分市教育委員会文化財室 1991.12
- 『国指定史跡豊後国分寺跡 環境整備事業報告書』大分市教育委員会 1992.3
- 坪根伸也・讃岐和夫・秦政寛『賀来中学校遺跡』大分市教育委員会 1992.3
- 『九州の土人形』第10回特別展図録 大分市歴史資料館 1991.10
- 坪根 伸也「賀来中学校遺跡の調査」『大分市歴史資料館ニュース』15 P7 大分市歴史資料館 1991.6
- 橋昌信・宮内克己・牧尾義則ほか『駒形津室迫遺跡・夏足原遺跡0地区』大野町教育委員会 1992.3
- 宮内 克己『朝地地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ』朝地町教育委員会 1992.3
- 渡部 幹雄「六箱横穴古墳遺物と保存」『緒方町立歴史民俗資料館年報』1 P15～22 緒方町立歴史民俗資料館 1992.3
- 『資料館だより』7 緒方町立歴史民俗資料館 1992.3
- 後藤 一重編『菅生台地と周辺の遺跡X V—石井入口遺跡 石井入口北遺跡—』竹田市教育委員会 1992.3
- 佐伯 治『平井A遺跡・原山B遺跡』竹田市教育委員会 1992.3
- 城戸 誠『竹田地区南部遺跡群Ⅲ』竹田市教育委員会 1992.3
- 佐伯 治『史跡岡城址Ⅶ』竹田市教育委員会 1992.3
- 城戸 誠『田井原遺跡・辻原遺跡』広域農道大野川上流南部地区発掘調査概報Ⅱ 竹田市教育委員会 1992.3
- 城戸 誠『岡藩主おたまや公園整備事業報告書Ⅲ』竹田市教育委員会 1992.3

D 市町村誌等

- 後藤 宗俊「原始・古代」『宇目町誌』宇目町 1991.10
- 鳥養 孝好「文字以前の荻町」『荻町史』P14～84 荻町 1991.5

E 研究機関

- 鈴木忠司編『大分県丹生遺跡群の研究』古代学研究所研究報告3 古代学協会 1992.3

F 別府大学

- 坂田邦洋・野口圭美・渡名喜令子「縄文時代の漁労活動に関する研究 —クロダイの体長組成—」『別府大学紀要』33 別府大学 1992.1

- 『史学論叢』22 別府大学史学研究会 1992.3
 賀川 光夫「再生鏡の分配と弥生後期の社会」P 7～19
 Tachibana Masanobu(橘昌信)“The Microlithic Culture in Southwestern JAPAN”
 (西南日本の細石器文化)
- 橘 昌信「玖珠川流域の分布調査」『別府大学付属博物館だより』35 P 1～8 別府大学
 付属博物館 1991.11
- 橘昌信ほか「特集 中国の博物館」『別府大学付属博物館だより』36 P 1～8 別府大学付
 属博物館 1992.2
- 石沢 良昭「アンコールワットについて」『別府大学アジア歴史文化研究所報』9.10 別府大
 学アジア歴史文化研究所 1992.3

G 県内研究会雑誌等

- 『おおいた考古』4 特集・日本の横穴墓 大分県考古学会 1991.11
 村上 久和「北九州周辺の横穴墓—発生期の横穴墓をめぐって—」P 1～6
 長津 宗重「日向の横穴墓」P 7～25
 西住欣一郎「肥後における横穴墓について」P 27～35
 妹尾 周三「山陽地方の横穴墓—広島県・岡山県を中心として—」P 37～45
 西尾克己・丹羽野裕「山陰の横穴墓—出雲地方を中心として—」P 47～62
 花田 勝広「近畿横穴墓の諸問題」P 63～92
 池上 悟「東国横穴墓の形式と伝播」P 93～116
 田中 良之「横穴墓被葬者の情報」P 117～126
- 『大分県地方史』143 大分県地方史研究会 1991.11
 小柳 和宏「中世土器生産小考—文書・地名から土器生産地を探る—」P 1～30
 玉永 光洋「高崎山城の縄張り」と織豊系城郭の成立」P 48～64
- 『大分県文化財保存協議会報』1 大分県文化財保存協議会 1992.3
 石部 正志「人類の未来と文化財保護(1)」P 2・3
- 『三毛の文化』15 中津地方の重文保存協 1991.7
 栗焼 憲児「相原廃寺の発掘調査」P 2・3
 村上 久和「山国川流域の古代仏教文化(Ⅱ)—山林仏教の成立—」P 4・5
- 『三保の文化』63 三保の文化財を守る会 1991.6
 栗焼 憲児「相原廃寺(3)」P 3
- 『三保の文化』64 三保の文化財を守る会 1991.9
 棚田 昭仁「中津の横穴墓について」P 1
 真野 和夫「中世城館探訪(1)」P 3
- 『三保の文化』65 三保の文化財を守る会 1991.12
 栗焼 憲児「三保の発掘史」P 1
 真野 和夫「中世城館探訪(2)」P 4
- 『三保の文化』66 三保の文化財を守る会 1992.2
 栗焼 憲児「城山古墳群」P 1
 真野 和夫「中世城館探訪(3)」P 5
- 海老沢 衷「光岡城址にたって」『宇佐の文化』31 宇佐の文化財を守る会 1991.5
 「平成2年度文化財調査略記」『日田文化』34 日田市教育委員会 1991.10
- 『玖珠郡史談』27 玖珠郡史談会 1992.1
 竹野孝一郎「野矢原遺跡表面採集の遺物について」P 2～19
- 『白杵史談』82 白杵史談会 1991.12

菊田 徹「末広焼とその陶工たち」P 5～11

神田 高士「最近の発掘調査から—古園石仏群・ホキ石仏第1群前庭部の調査—」
P 21～31

市野瀬 仁「米水津村周辺の考古学上の遺跡・遺物発見者の物語(二)」『佐伯史談』157
P 19～23 佐伯史談会 1991.6

市野瀬 仁「米水津村周辺の考古学上の遺跡・遺物発見者の物語(三)」『佐伯史談』158
P 9～17 佐伯史談会 1991.10

市野瀬 仁「米水津村周辺の考古学上の遺跡・遺物発見者の物語(四)」『佐伯史談』159
P 12～14 佐伯史談会 1992.2

H 九州の研究会雑誌等

『九州考古学』66 九州考古学会 1991.12

高橋信武・坪根伸也「下郡遺跡郡発掘調査中間報告・下郡桑苗遺跡の調査(発表要旨)」
P 104

栗田 勝広「大分県千歳村鹿道原遺跡の調査(発表要旨)」P 107

『古文化談叢』26 九州古文化研究会 1991.12

「古代官衛とその周辺—第76回九州古文化研究会(大分大会)の記録—」P 1～71

『古文化談叢』27 九州古文化研究会 1992.3

村上 久和「大分県下毛郡三光村瑞雲寺廃寺出土遺物の検討」P 43～58

綿貫 俊一「大分県内の旧石器遺跡(1989・1990年)」『九州旧石器』2 九州旧石器研究会
1991.9

吉留 秀敏「大分県野津町採集の細石器について—田良原B遺跡・奥畑遺跡—」同上。

『交流の考古学』肥後考古8 肥後考古学会 1991.6

坪根 伸也「南九州における榊描文の系譜」P 241～256

賀川 光夫「中国後漢末銅鏡—神獣画像と各種三角縁鏡体について」P 347～368

I 九州外の研究会雑誌等

村上 恭通「中九州における弥生時代鉄器の地域性」『考古学雑誌』77-3 P 63～88
日本考古学会 1992.2

江田 豊「大分県大分市庄の原遺跡の旧石器」『考古学ジャーナル』344 P 37～40
ニュー・サイエンス社 1992.3

栗田 勝弘「各都道府県の動向—44 大分県」『日本考古学年報42(1989年度)』P 350～357
日本考古学協会 1991.7

坂本 嘉弘「大分県下毛郡三光村佐知遺跡」『日本考古学年報42(1989年度)』P 566～569
日本考古学協会 1991.7

坂本 嘉弘「九州内陸部の農耕の民」『新版古代の日本3 九州・沖縄』P 67～68 角川書店
1991.11

高橋 徹「円筒埴輪—九州」『古墳時代の研究9』P 81～89 雄山閣 1992.1

村上 久和「各地の概要—豊前」『前方後円墳集成—九州編—』山川出版社 1992.2

田中 裕介「各地の概要—豊後」『前方後円墳集成—九州編—』山川出版社 1992.2

後藤一重ほか「大分県」『前方後円墳集成—九州編—』山川出版社 1992.2

玉 永ほか「大分県」『弥生時代の石器第1部第1分冊』第31回埋蔵文化財研究会資料集
成 P 515～530 埋蔵文化財研究会 1992.2

大塚 主 『七つ森古墳物語』(私家版) 1991.7
橋 昌信 「大分県松山遺跡第2次発掘調査」 『日本とシベリアの先史文化交流に関する日
ソ共同研究』 1992.3 P 68~82

大分県埋蔵文化財年報 1

— 平成 3 (1991) 年度 —

発行日 1993年 3月31日

編集・発行 大分県教育委員会文化課
〒870 大分市府内町 3丁目10番1号
TEL (0975) 36-1111

印刷 東洋印刷株式会社